

令和8年度 実行計画

鈴鹿市教育振興基本計画



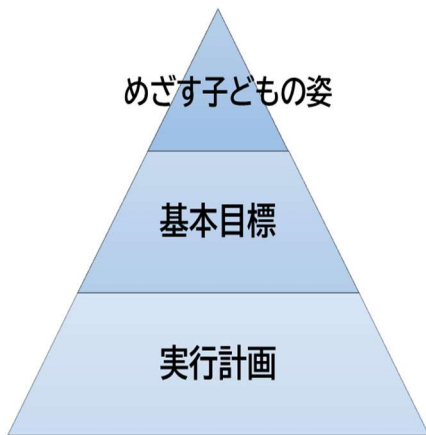
鈴鹿市 / 鈴鹿市教育委員会

目次

1	はじめに	1
2	取組内容一覧	2
3	取組内容	
■ 1	確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成	
(1)	1-1 学力向上	4
(2)	1-2 教育DXの推進	5
(3)	1-3 英語教育	6
(4)	1-4 読書活動	7
(5)	1-5 就学前からの一貫した学びの充実	8
(6)	1-6 キャリア教育及び主権者教育	9
(7)	1-7 自ら学ぶ子どもの育成	10
■ 2	自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成	
(8)	2-1 不登校対策	11
(9)	2-2 いじめ防止対策	12
(10)	2-3 生徒指導	13
(11)	2-4 人権教育	14
(12)	2-5 特別支援教育	15
(13)	2-6 日本語教育及び多文化共生教育	16
(14)	2-7 道徳教育	17
■ 3	心身の健康を自ら育み、豊かな感性を身に付けた子どもの育成	
(15)	3-1 心身の健康と食に関する教育	18
(16)	3-2 文化・芸術活動	19
(17)	3-3 安全・安心で安定的な学校給食の提供	20
■ 4	家庭・地域とともに子どもの成長を支える教育環境づくりの推進	
(18)	4-1 休日の部活動地域移行	21
(19)	4-2 地域とともにある学校づくり	22
(20)	4-3 安全・安心の学校づくり	23
(21)	4-4 郷土教育及び環境教育	24
■ 5	学校環境の整備・充実	
(22)	5-1 学校規模の適正化	25
(23)	5-2 施設等の環境整備	26

1 はじめに

(1) 実行計画



教育基本法第17条第2項の規定に基づき、令和6年度から令和9年度までを計画期間とする教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、鈴鹿市教育振興基本計画（以下「基本計画」という。）を令和6年4月に策定しました。この基本計画では、「めざす子どもの姿」を実現させるため、基本理念のもと3つの基本目標を設定し、その目標の具現化のために、こどもと地域のあるべき姿として、5つの施策の基本的方向を設定しています。

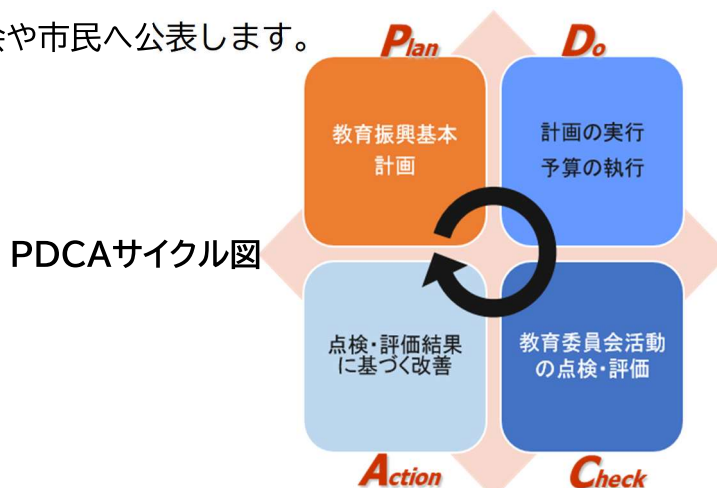
本実行計画は、5つの施策の基本的方向に基づき、各事業の年度ごとの具体的な取組内容をまとめたものです。

施策の基本的方向

- (1) 確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成
- (2) 自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成
- (3) 心身の健康を自ら育み、豊かな感性を身に付けた子どもの育成
- (4) 家庭・地域とともに子どもの成長を支える教育環境づくりの推進
- (5) 学校環境の整備・充実

(2) 基本計画の進行管理

基本計画を効果的に推進し、継続的な改善を図るために、「めざす姿」と活動指標（または成果指標）を設定し、計画・実行・確認・改善のサイクルを繰り返しながら、事業の振り返りや見直しを図り、より実効性が担保できるようにします。具体的には、実行計画に沿った活動結果を地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」に基づき、進行管理を行い、学識経験者による評価を経て市議会や市民へ公表します。



2 取組内容一覧

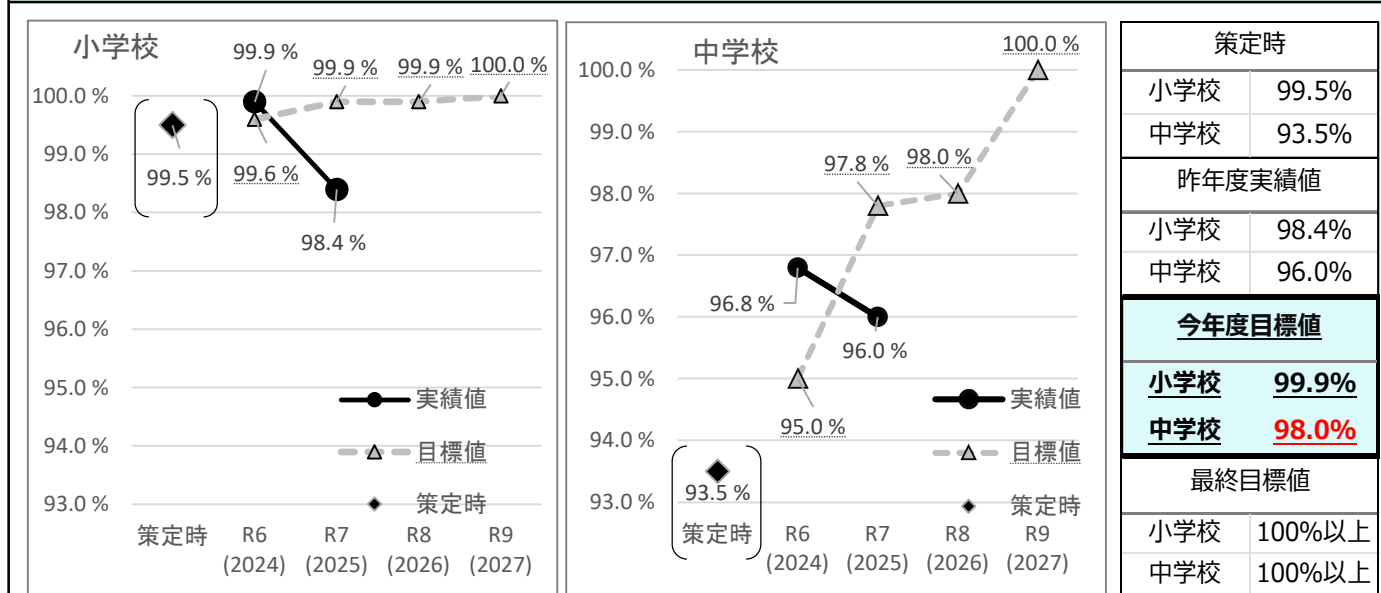
No.	基本事業	担当課	取組内容
【1 確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成】			
1	1-1 学力向上	教育指導課	①「授業力UP5★」を活用した授業改善 ②ICTを活用した学びの促進 ③読解力の育成に向けた取組 ④学力向上プロジェクト会議を通じた市内共通取組の推進
2	1-2 教育DXの推進	教育指導課 教育支援課 教育政策課	①情報活用能力の育成 ②情報モラル教育の充実 ③ICT活用推進プロジェクト会議による組織的推進体制の構築
3	1-3 英語教育	教育指導課	①「CAN-DOリスト」を踏まえた英語教育の推進 ②ICTを活用した新たな学びの創造 ③外国語指導助手の活用
4	1-4 読書活動	教育指導課	①不読率の低減 ②デジタル社会に対応した読書環境の整備 ③多様な子どもたちの読書機会の確保 ④こどもの視点に立った読書活動の推進 ⑤鈴鹿市立図書館との連携
5	1-5 就学前からの一貫した学びの充実	教育指導課	①円滑な接続のための連携の強化 ②子どもたち同士の交流の促進 ③小中一貫教育の実践 ④教職員同士の交流や研修体制づくりの推進 ⑤幼稚園・保育所の連携
6	1-6 キャリア教育及び主権者教育	教育指導課 教育支援課	①キャリア教育の充実 ②主権者教育の充実
7	1-7 自ら学ぶ子どもの育成	教育指導課	①子どもが自ら学ぼうとする学習の創造
【2 自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成】			
8	2-1 不登校対策	教育支援課	①学校支援体制の充実 ②安心できる学び場づくり ③教育支援センターの運営 ④関係機関との連携
9	2-2 いじめ防止対策	教育支援課	①いじめ防止の推進 ②早期発見、早期対応 ③相談体制の充実
10	2-3 生徒指導	教育支援課	①組織的な生徒指導体制づくり ②児童生徒による主体的な取組 ③関係機関などとの連携
11	2-4 人権教育	教育支援課	①学校・園における人権教育の推進 ②鈴鹿市人権教育センターを拠点とした人権教育の推進
12	2-5 特別支援教育	教育指導課	①途切れない支援体制の充実 ②通級による指導の充実 ③特別支援教育プロジェクト会議による方向性の検討 ④特別支援学校や関係機関と連携した教育
13	2-6 日本語教育及び多文化共生教育	教育支援課	①日本語教育支援体制の充実 ②一人ひとりに応じた適応支援 ③多文化共生に関わる授業づくり ④外国人児童生徒の就学支援・キャリア教育の充実
14	2-7 道徳教育	教育指導課	①道徳科の授業改善 ②学校教育活動全体を通じた道徳教育の推進
【3 心身の健康を自ら育み、豊かな感性を身に付けた子どもの育成】			
15	3-1 心身の健康と食に関する教育	教育指導課 学校教育課	①日常的な体育活動の推進 ②健康課題を解決するための取組の推進 ③食育の推進
16	3-2 文化・芸術活動	教育指導課	①芸術活動の推進 ②「未来応援人」の活用推進 ③ICTを活用した文化・芸術教育の充実
17	3-3 安全・安心で安定的な学校給食の提供	教育総務課	①安全・安心な学校給食の提供 ②給食調理施設・設備の適切な維持管理等の推進 ③学校給食を通じた地域貢献と食への関心の醸成
【4 家庭・地域とともに子どもの成長を支える教育環境づくりの推進】			
18	4-1 休日の部活動地域移行	教育指導課	①地域移行に向けた調査研究 ②モデル事業の実施 ③体制の構築
19	4-2 地域とともにある学校づくり	教育支援課	①「協働型」コミュニティ・スクールの活性化 ②コミュニティ・スクールの推進 ③地域とともにある学校づくり
20	4-3 安全・安心の学校づくり	教育支援課 教育指導課	①交通安全、防犯、防災・減災教育の充実 ②家庭、地域及び関係機関などと連携した安全確保の推進 ③通学路の安全確保
21	4-4 郷土教育及び環境教育	教育指導課	①地域人材や社会教育施設等を活用した地域学習 ②地域教材の開発と活用
【5 学校環境の整備・充実】			
22	5-1 学校規模の適正化	教育政策課	①学校規模適正化・適正配置の検討 ②学校再編計画の策定 ③小中一貫教育に適した学校施設の在り方の検討
23	5-2 施設等の環境整備	教育政策課 教育総務課	①学校施設等の整備と適切な維持管理 ②屋内運動場の空調設備の設置推進 ③トイレの洋式化の推進

指標	策定時 (※1)	R6年度 実績値	R7年度 実績値	比較 (実績値)	R8年度 目標値	最終 目標値
全国学力・学習状況調査の国語・算数/数学における、全国の平均正答率に対する本市の平均正答率の割合【全国学力・学習状況調査】	小学校 99.5%	小学校 99.9%	小学校 98.4%	↓	小学校 99.9%	小学校 100%以上
	中学校 93.5%	中学校 96.8%	中学校 96.0%	↓	中学校 98.0% (前年度 98.8%)	中学校 100%以上
「授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」という問いに「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】	31.0%	29.2%	55.3%	↑	80.0% (前年度 76.4%)	100.0%
中学校卒業段階でCEFRのA1レベル相当(英検3級など)以上を達成した中学生の割合【英語教育実施状況調査】	26.5%	39.4%	45.6%	↑	47.8% (前年度 46.5%)	50.0%
「読書は好きか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】	小学校 69.7%	小学校 62.6%	小学校 66.9%	↑	小学校 69.0% (前年度 68.2%)	小学校 71.0%
	中学校 61.1%	中学校 58.2%	中学校 59.7%	↑	中学校 62.3% (前年度 62.8%)	中学校 65.0%
「近隣等の校種の違う学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行ったか」という問いに「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した学校の割合【学校質問紙】	80.0%	80.0%	82.5%	↑	85.0%	87.5%
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】	72.1%	81.5%	77.3%	↓	80.0% (前年度 78.0%)	80.0%
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたり(2024年度からは「新たな考え方に気付いたり」)することができるか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】	78.1%	85.7%	83.1%	↓	87.2% (前年度 88.7%)	90.0%
全国の長期欠席人数の割合を100とした時の鈴鹿市の長期欠席人数の割合の値【児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査】	122	120	118	↑	108 (前年度 106)	100未満
「いじめをしない・させないよう、友だちとともに考え、行動しているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート(児童生徒)】	88.0%	88.4%	89.0%	↑	91.0% (前年度 91.7%)	93.0%
「学校やクラスのルールやきまりを理解し守ることができるか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート(児童生徒)】	92.8%	92.0%	91.6%	↓	94.6%	96.0%
「差別をなくすために何かできることをしたいか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート(児童生徒)】	90.7%	91.1%	90.9%	↓	92.5% (前年度 93.4%)	94.0%
全児童生徒において、個別の指導計画を作成している児童生徒の割合【三重県独自調査】	7.3%	15.3%	16.0%	↑	12.0%	12.0%
「多くの国の人と友だちになったり、自分の国以外の国のことについてもっと知りたいと思うか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート(児童生徒)】	84.5%	85.1%	85.7%	↑	87.7% (前年度 88.8%)	90.0%
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】	82.6%	89.6%	89.0%	↓	89.6%	87.0%
運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは「好き」「やや好き」と回答した児童生徒の割合【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	86.4%	87.2%	87.0%	↓	88.5% (前年度 89.1%)	90.0%
「未来応援人」を活用した学校の割合	67.5%	80.0%	82.5%	↑	85.0%	85.0%
中学校給食における副菜の残菜率	11.6%	9.1%	8.4%	↑	8.2% (前年度 8.4%)	8.0%
休日の部活動地域移行実施率(全部活動のうち、休日の移行ができた部活動の割合)【独自調査】	0%	35.6%	75.4%	↑	100.0%	100.0%
「学校と地域が連携した取組が行われているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した保護者の割合【学校アンケート(保護者)】	86.3%	84.6%	87.8%	↑	90.2%	93.0%
「危険なことから自分たちを守るため、安全な行動を取っているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート(児童生徒)】	93.1%	92.9%	91.2%	↓	94.5% (前年度 95.2%)	96.0%
「今住んでいる地域の行事に参加しているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】	51.2%	59.8%	57.9%	↓	63.4% (前年度 66.6%)	70.0%
再編計画の策定数	1件	1件	1件	→	100.0%	2件
【教育振興基本計画】 屋内運動場に空調設備を設置した学校の割合	7.5%	52.5%	100.0%	↑	100.0%	100.0%
【教育委員会独自設定(R8年度～)】 学校校舎のトイレを洋式化した割合	—	—	50.0%	—	53.0%	55.0%

(※1) 策定時として表記している数値は、基本計画策定時における【現状値】を示しております。

施策の基本的方向	1 確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成
基本事業	1-1 学力向上
指標	全国学力・学習状況調査の国語・算数/数学における、全国の平均正答率に対する本市の平均正答率の割合【全国学力・学習状況調査】

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

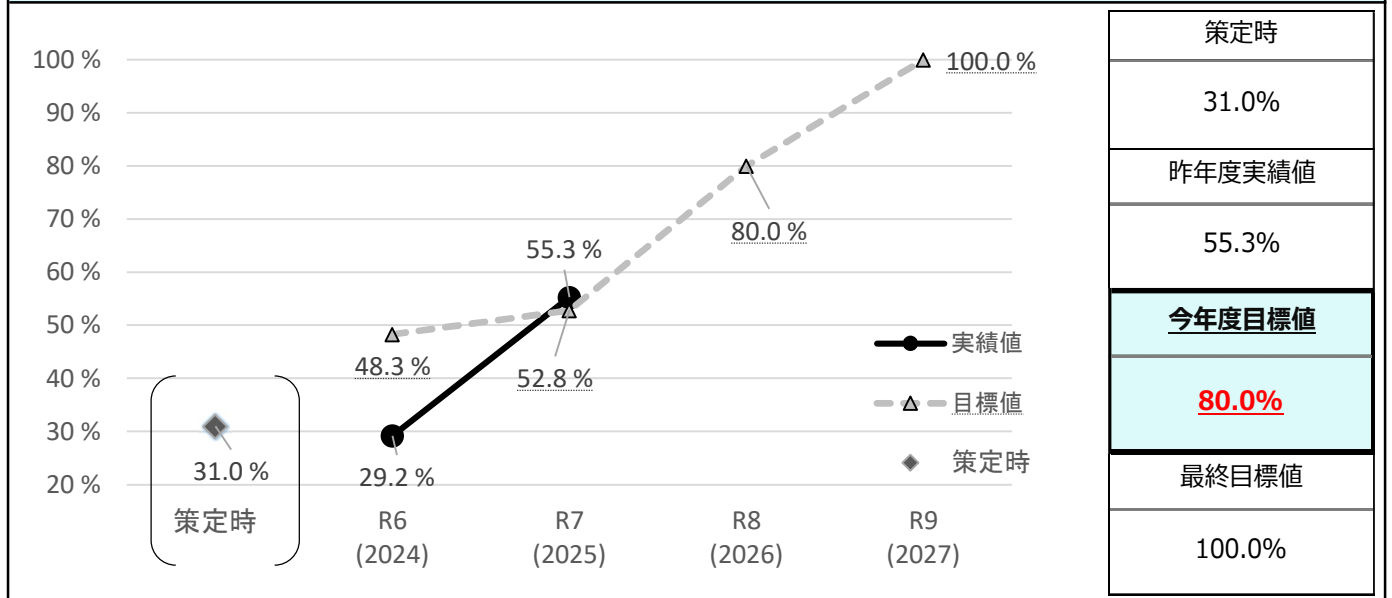
◆年間の活動計画

- A【継続➡】** 1人1台端末の活用を促進し、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るために見直しを行った「授業力UP5★ver.2」に基づいた授業改善を一層推進します。「授業力UP5★ver.2」の活用を広く促すために、各研修会等において指導主事が具体的な実践例を示しながら指導や助言を行い、教員の指導力向上を支援します。また、指導教諭対象の研修会を開催するとともに、指導教諭等による公開授業を実施します。
- B【継続➡】** こどもたちの読解力・表現力・思考力等を育成するために、調べ学習等の学校図書館を活用した授業実践を市内の全小中学校に拡大するとともに、「鈴鹿市中学生ビブリオバトル」を開催します。また、読解力の向上を図るために、継続して「読解力向上ワークシート」（「読む・書くワークシート」及び「よむYOMUワークシート」）に市全体で取り組みます。各校の実態に応じた効果的な活用を可能とするため「読む・書くワークシート」がより実践的な教材となるよう見直します。また、活用事例や指導のポイントを共有できる特設サイトを随時更新します。
- C【継続➡】** プロジェクト会議で協議された方針に基づき、ICT活用を含めた授業改善を一層推進することによってCD層の底上げ及び市全体の学力向上を図ります。こどもの学びを保障する観点から、学力向上担当者会議などで学校や家庭における1人1台端末の効果的な活用事例を共有することにより活用を促進します。
- D【継続➡】** 学力向上支援員による経験年数の浅い教員の指導力及び学級経営力の向上をめざして、定期的な学校訪問や研修会を実施します。

◆今年度目標値の設定根拠 2025(令和7)年度の実績値は小学校98.4%、中学校96.0%で目標値に届かなかったため見直しを行い、2027(令和9)年度の目標値100%以上に向け、小学校は2024(令和6)年度実績値の99.9%、中学校は年間2.0ポイント増の98.0%を目標として設定しました。	3 関連する総合計画2031の実行計画	
	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12102	教育研究推進支援事業
	12104	学力向上支援事業
	12106	小学校教育推進事業
	12108	中学校教育推進事業

施策の基本的方向	1 確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成
基本事業	1 - 2 教育DXの推進
指標	「授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」という問いに「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】

1 指標の目標等



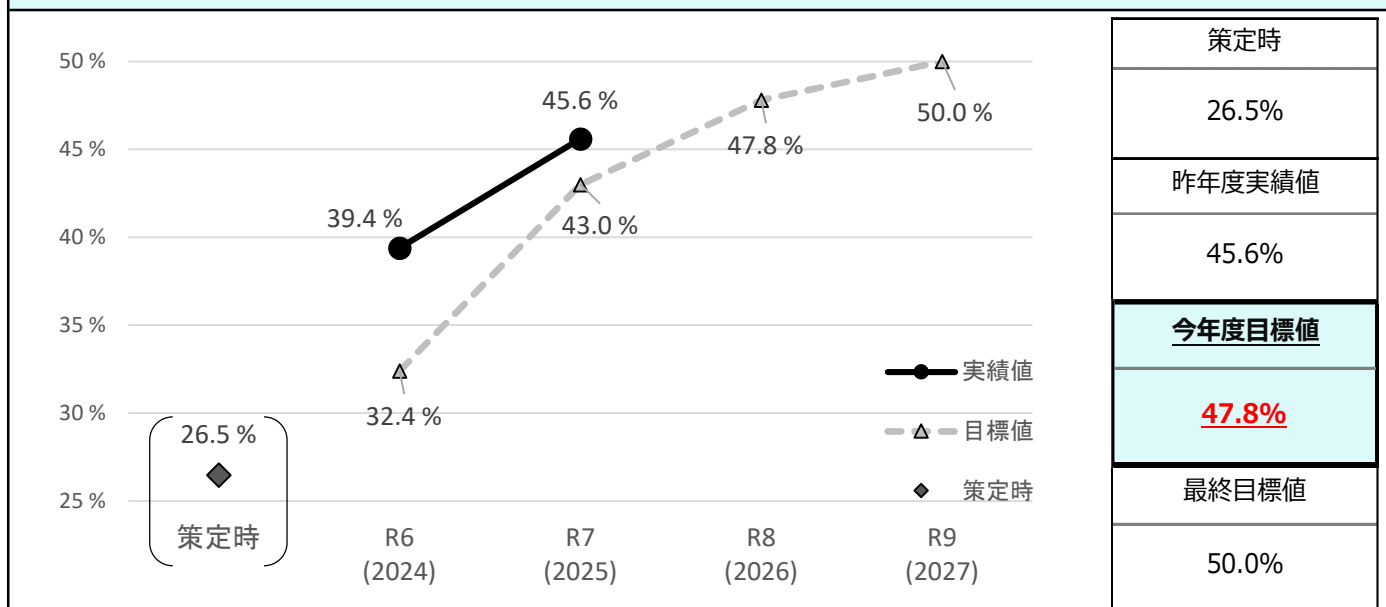
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【見直し🌀】** 情報活用能力の系統的な育成を図るため、天栄小学校で実践するカリキュラムの整理と授業づくりの支援を行います。また、生成AIに関わる子どもたちへの指導に向けて、本体系表に生成AIの項目を位置付けるとともに、[生成AIの教育利活用に係るガイドライン等を運用](#)します。また、有識者を招請した公開授業を行うことで、市内に横展開するとともに、好事例を発信します。さらに、授業での端末活用につながるよう、端末持ち帰りによる家庭学習の質を高めます。
- B【見直し🌀】** 指導主事が各小中学校を訪問し、情報教育推進担当者や研修長、学力向上担当者、指導教諭等と端末を活用した授業改善等に係る情報交換を行うとともに、授業改善の広がり等の状況に応じた助言及び[情報活用能力や生成AIの教育利活用に係る校内研修](#)を行います。
- C【継続➡】** 情報活用能力や生成AIの教育利活用に係る研修講座を企画・運営するとともに、生成AIの教育利活用などを実践している先進自治体への教員の視察を奨励します。
- D【見直し🌀】** [小中9年間で情報活用能力を育成するなどの小中一貫教育による学力向上](#)をめざし、中学校区の情報教育推進担当者や研修長、学力向上担当者、指導教諭等が連携する担当者会を実施します。
- E【新規🌀】** [子ども一人ひとりの力を最大限に引き出すためのきめ細かな支援を可能とするために、データの利活用を進めます。](#)
- F【見直し🌀】** [生成AIの活用も含め](#)、小中学生のインターネット上でのトラブルを未然に防ぐために、出前講座を実施し、情報モラル教育の推進を図ります。また、各学校において、教育課程全体を通じて未然防止に取り組むことができるように、教材等の提供を行います。

◆今年度目標値の設定根拠 最終目標値の100%に向けて、引き続き有識者を招いた授業改善に取り組むことにより、授業中の端末活用頻度の改善が見込まれることから、80.0%を目標として設定しました。	3 関連する総合計画2031の実行計画	
	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12104	学力向上支援事業
	12151	教育情報化推進事業

施策の基本的方向	1 確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成
基本事業	1 - 3 英語教育
指標	中学校卒業段階でC E F R（セファール）のA 1レベル相当（英検 3級など）以上を達成した中学生の割合【英語教育実施状況調査】

1 指標の目標等



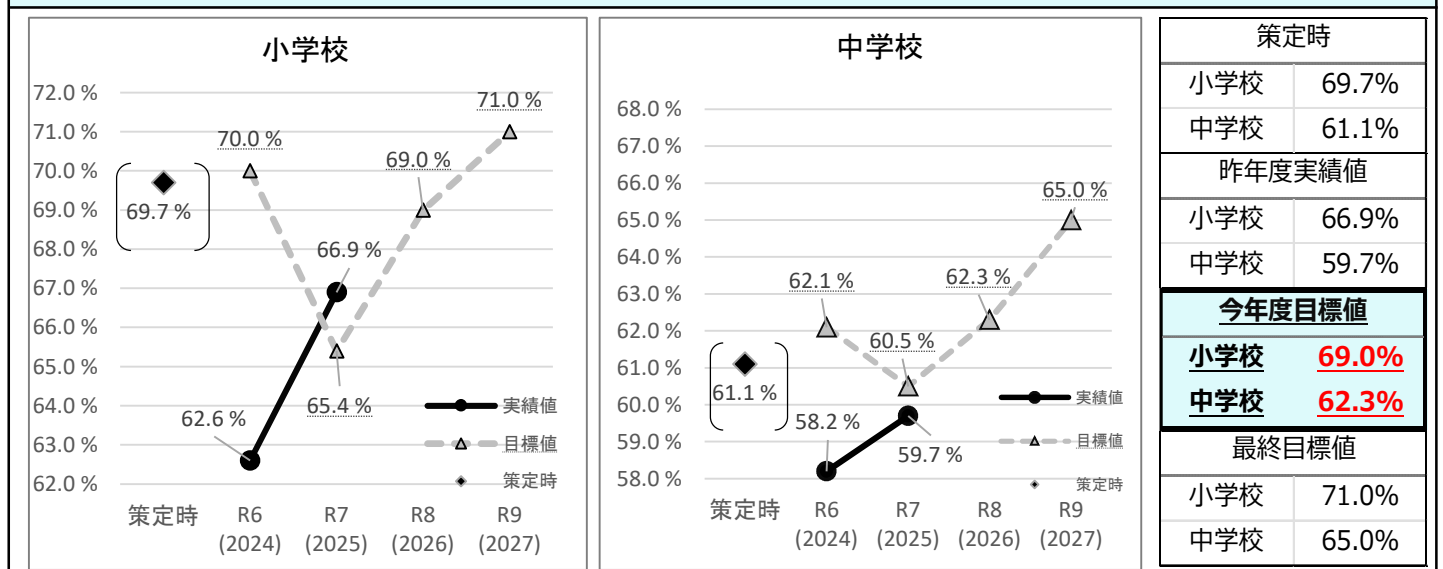
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【継続➡】**「英語によるコミュニケーション」中心の学習を行うため、外国語指導助手（A L T）を効果的に活用し、即興で伝え合う活動を充実させた授業を実践します。また、児童生徒に「生きた英語」を提供するために、休み時間や給食、掃除時間をALTと一緒に過ごすなど、授業外でも日常的に交流する機会を確保します。
- B【継続➡】**言語活動を充実させた授業づくりに向け、従来の紙の教科書に加え、学習者用デジタル教科書やMEXC BT（メクビット：文部科学省CBTシステム）を活用します。
- C【見直し🌀】**「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の4技能5領域の力を総合的に育成するために、[児童生徒の主体性を引き出す課題設定](#)や言語活動を充実させた授業改善に係る実践研修（授業公開や研修講座等）を行います。また、英語教育の充実に向けた授業改善を推進するため、「英語教育担当者会」を活用し、小中連携に係る中学校区ごとの先進的な取組や授業公開における好事例などを発信します。
- D【見直し🌀】**天栄小学校における、低学年からの実践的な英語力の育成をめざすため、国際化教育指導員を活用し、日常的に英語に触れる機会を創出するとともに、[低学年向けの系統的な指導カリキュラムを構築](#)します。
- E【見直し🌀】**生徒自身が結果を分析して自らの課題を捉える「[自己調整学習](#)」につなげる指導を充実させることで、英語学習の動機付けを図り、さらなる生徒の英語力向上をめざすため、中学校における外部試験を実施します。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画	
外部試験の実施対象を拡充することにより、客観的なスコアに基づく、生徒自身による英語学習の改善が見込まれることから、当初の予定どおり47.8%を目標として設定しました。	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12101	国際化教育推進事業

施策の基本的方向	1 確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成
基本事業	1 - 4 読書活動
指標	「読書は好きか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】【R6年度は独自調査にて把握】

1 指標の目標等



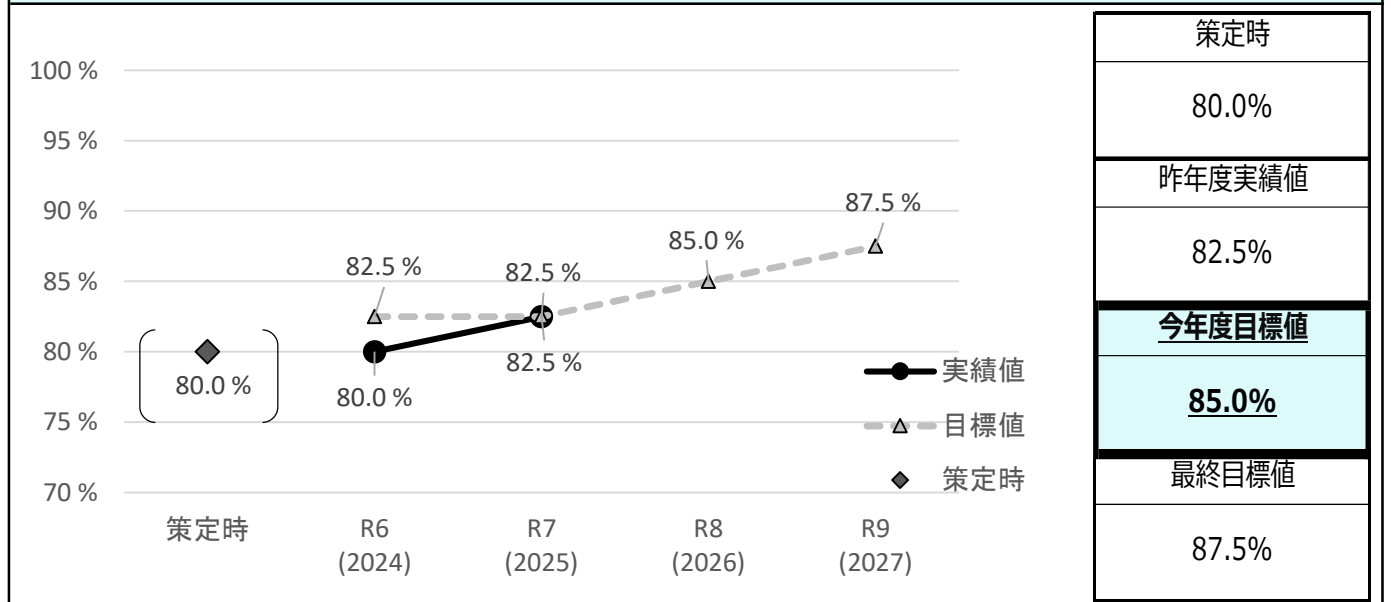
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【継続➡】 校長会や学校図書館担当者会での発信により、学校図書館を活用した授業実践の啓発を行います。
 - B【継続➡】 中学校では、電子書籍の活用が促進されるよう、こどもたちが興味を示すコンテンツを導入するとともに、活用事例を発信します。
 - C【見直し🌀】 こどもたちが図書館や本をより身近に感じられるよう、昨年度に引き続き、市立図書館との連携により、イベントを開催します。また「鈴鹿市中学生ビブリオバトル」を継続し、中学生が本に興味を持つことで、不読率の低減を図ります。さらに、ビブリオバトルの組織的な取組を市全体へ広げ、参加校の拡大をめざすとともに、**開催規模の拡充**を図ります。
 - D【継続➡】 学校図書館担当者会を年間2回開催し、読書活動を計画的に推進するための学校図書館活用年間計画や運営計画を周知するとともに、各校が実践できる好事例を紹介し、担当者に助言を行います。
 - E【見直し🌀】 市立図書館と共同で改訂を進めてきた「**鈴鹿市推薦図書リスト**」を**完成**させ、市内の全幼稚園・小学校・中学校へ配付し、活用を促します。
 - F【継続➡】 学校図書館巡回指導員を引き続き学級数に応じて派遣し、こどもたちが学校図書館に行きたいと思える環境整備を中学校区全体で推進します。また、各校の特色を生かしたオリエンテーションの充実、発達段階に応じたブックトークや読み聞かせを行います。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画						
「鈴鹿市推薦図書リスト」の改訂版の活用を推進することにより、読書活動に対する肯定的意識の改善が見込まれることから、2027(令和9)年度の目標値に向け、小学校は年間2.1ポイント増、中学校は年間2.6ポイント増を目標として設定しました。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実行計画番号</th> <th>実行計画書の事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12103</td> <td>学校図書館巡回指導事業</td> </tr> <tr> <td>12105</td> <td>読書活動推進事業</td> </tr> </tbody> </table>	実行計画番号	実行計画書の事業名	12103	学校図書館巡回指導事業	12105	読書活動推進事業
実行計画番号	実行計画書の事業名						
12103	学校図書館巡回指導事業						
12105	読書活動推進事業						

施策の基本的方向	1 確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成
基本事業	1 - 5 就学前からの一貫した学びの充実
指標	「近隣等の校種の違う学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行ったか」という問いに「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した学校の割合【学校質問紙】

1 指標の目標等



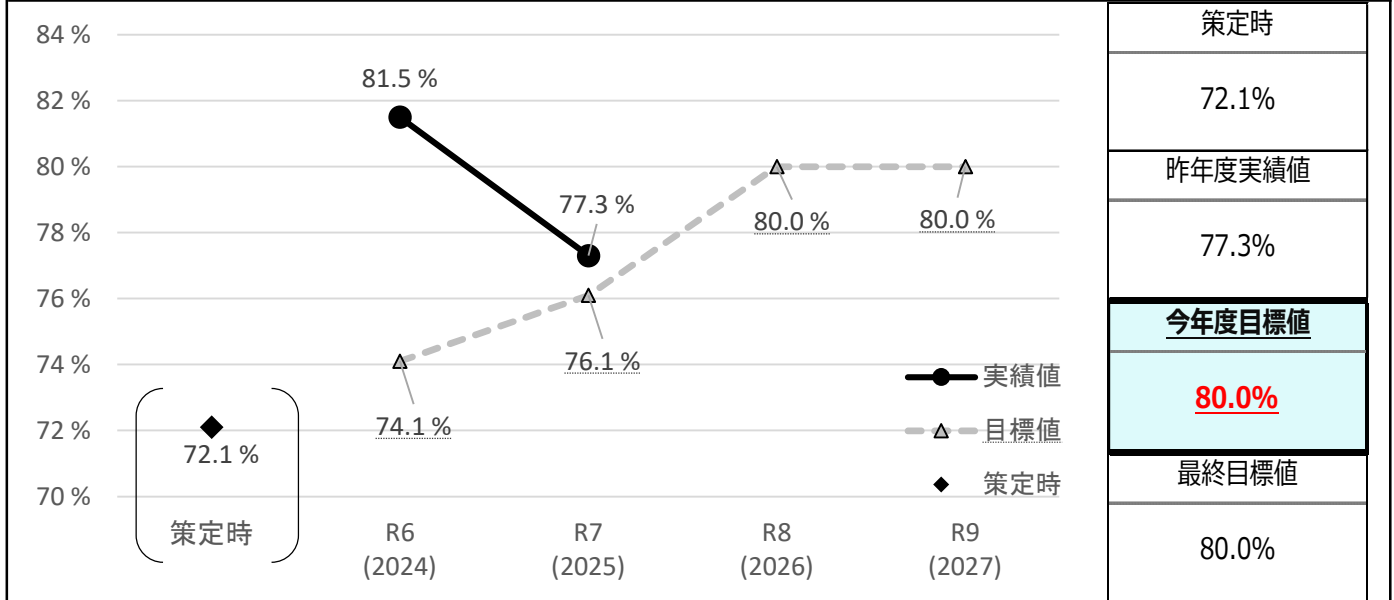
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【継続➡】** 学校の実情に合わせ、小学校中学年及び高学年において一部教科担任制を実施します。また、交流の目的を明確にしなが、園児児童生徒の交流活動を行います。
- B【継続➡】** 「鈴鹿市幼小中一貫教育ガイドライン」を基に、一貫教育の推進に向け、こどもの実態把握や課題の共有、めざすこども像の設定、教育課程の接続等に関わる取組等、中学校区を基本とした実践を進めます。
- C【見直し🌀】** 幼児教育と小学校教育の円滑な接続のため、小学1年生の授業公開や研修講座等の実施をとおして、鈴鹿市版架け橋プログラムの取組を推進し、**私立を含めた就学前施設**と小学校教職員との連携・協働を図ります。
- D【新規📄】** 天栄中学校区において、2032(令和14)年度に開校をめざす義務教育学校の再編計画(素案)の作成に向けて、9年間の系統的な教育カリキュラム、柔軟な学年段階の区切りや学校行事、地域との連携も踏まえた特色ある教育活動等、本市における一貫教育の在り方について研究します。

◆今年度目標値の設定根拠 2026(令和8)年度は、各中学校区における「幼小中一貫教育ガイドライン」に基づく取組の推進がさらに見込まれることから、2.5ポイントの増加を目標として設定しました。	3 関連する総合計画2031の実行計画	
	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12102	教育研究推進支援事業
	12111	新たな小学校準備事業(事業実施はなし。)

施策の基本的方向	1 確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成
基本事業	1 - 6 キャリア教育及び主権者教育
指標	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】

1 指標の目標等



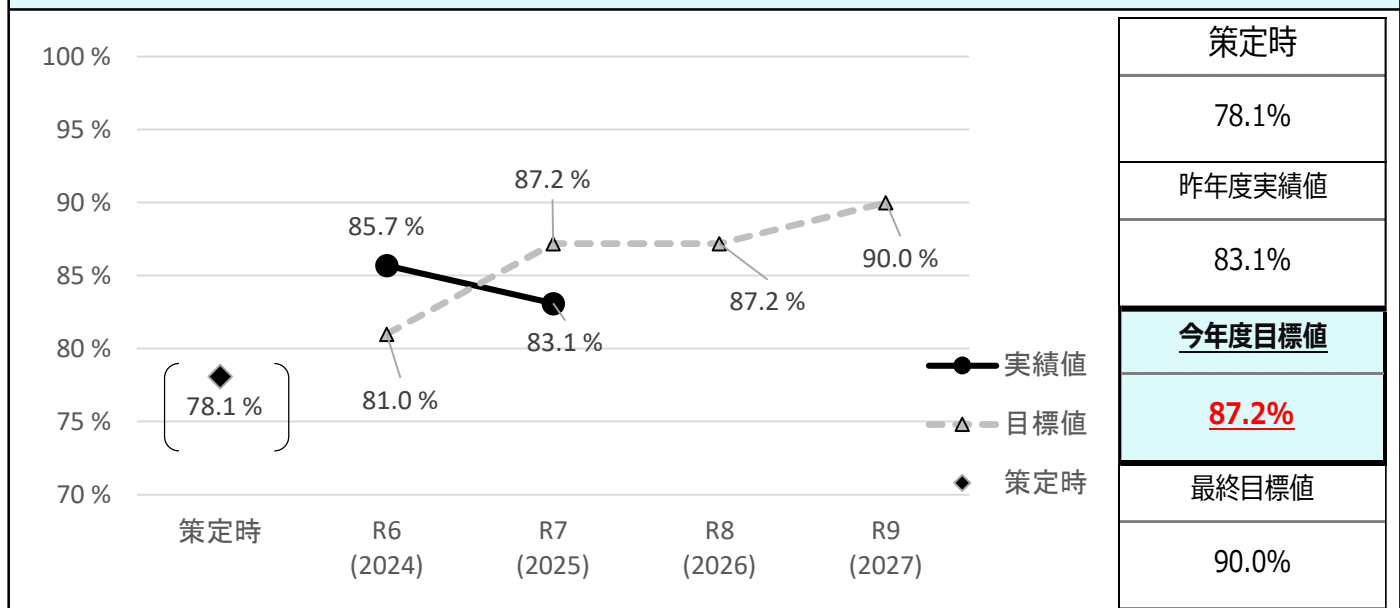
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【継続➡】** 児童生徒自らの体験活動を通して、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成を図るため、引き続き中学校では職場体験学習を全10校で実施するとともに、小中学校においては「未来応援人」等を活用した出前講座を実施します。
- B【継続➡】** 将来の生き方を考える活動を通して、児童生徒一人ひとりのキャリア形成と自己実現を図るため、鈴鹿市版キャリアパスポートの活用を促進し、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返り、新たな学習や生活への意欲につなげる活動に取り組みます。
- C【継続➡】** 各中学校の生徒会が集まる生徒会研修会において、学校のルール作りや行事の企画・運営等の交流を通して、各校における自治活動の活性化を図ります。
- D【継続➡】** 市政の仕組みや議会等の活動に関心を高める活動の充実を図るため、選挙管理委員会事務局や議会事務局等と連携し、こども議会や模擬選挙、議場見学等の体験活動を積極的に取り入れます。
- E【見直し🌀】** 主権者教育の充実に向けて、市が作成した[教材の見直しを行うとともに、児童生徒の端末からアクセス可能なシステムを構築](#)します。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画
2025(令和7)年度の実績値は77.3%で、2024(令和6)年度実績から下降しました。継続した取組により意識の醸成が見込まれることから、最終目標値である80.0%を目標として設定しました。	実行計画番号 実行計画書の事業名
	12109 生徒指導活動等事業

施策の基本的方向	1 確かな学力を身に付け、グローバルな視点で主体的に未来を創る子どもの育成
基本事業	1-7 自ら学ぶ子どもの育成
指標	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたり(2024(令和6)年度からは「新たな考え方に気付いたり」)することができているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

◆年間の活動計画

A【継続➡】 自ら学ぶこどもの育成に向けて、教員の授業観の転換を図るために、教職員同士が日々の教育活動を通じて対話する環境づくりや、学力向上支援員・指導主事・指導教諭による指導・助言等を行います。また、本市がめざす自律した学習者の育成に関して、市内小中学校が実施する公開授業への教員の参加を促します。さらに、情報活用能力の育成と並行して、教科等横断的に探究的な学びを行っている先進自治体への教員の視察を奨励します。

B【継続➡】 市内外の先進的な取組や国の動向について、研修講座、担当者会、教育指導課研究グループだより及び教委特設サイトを通じて、市内全教職員に発信します。

C【見直し🌀】 教職員の資質・能力の向上をめざして、2026(令和8)年度からは[愛知教育大学との相互連携による講師派遣](#)も取り入れながら、経験年数や職種に応じた研修及び今日的教育課題に対応した研修を継続して実施します。また、ICTを活用して、教職員が学びやすい環境を整えるとともに、研修での学びや意見を即時に参加者同士、講師と交流することができる新たな研修の在り方を引き続き模索します。

D【継続➡】 鈴鹿市がめざす教育の在り方を研究協議するため、研究委託を行います。

2026(令和8)年度発表校(二年度)：桜島小学校、箕田小学校、鈴峰中学校、【飯野幼稚園(2025(令和7)年度に発表済)】

2027(令和9)年度発表校(一年次)：玉垣小学校、深伊沢小学校、平田野中学校

◆今年度目標値の設定根拠

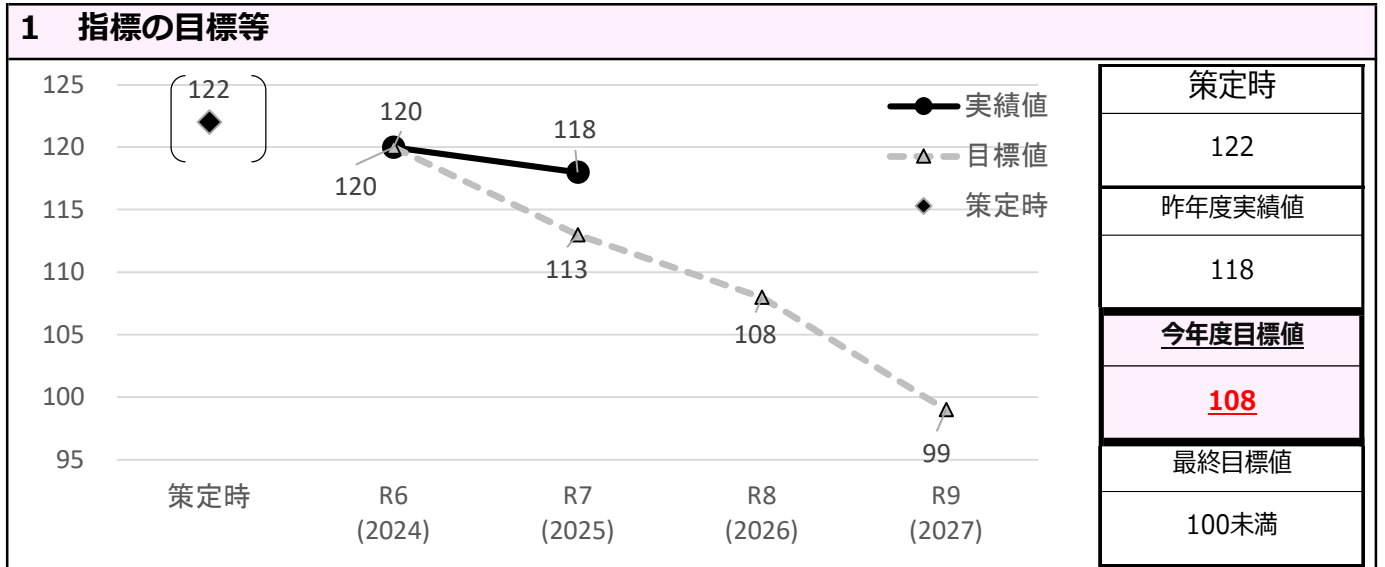
2025(令和7)年度の実績値は83.1%で、目標値に届きませんでした。市内外の先進的な取組を生かした教員研修等を通じて、授業改善の進展に成果が見込まれることから、再度87.2%を目標として設定しました。

3 関連する総合計画2031の実行計画

実行計画番号	実行計画書の事業名
12104	学力向上支援事業

施策の基本的方向	2 自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成
基本事業	2-1 不登校対策
指標	全国の長期欠席(※)人数の割合を100とした時の鈴鹿市の長期欠席人数の割合の値【児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査】

※長期欠席とは、年間30日以上欠席した状態。「不登校」・「病欠」・「経済的理由」・「その他」の4つに分類されます。

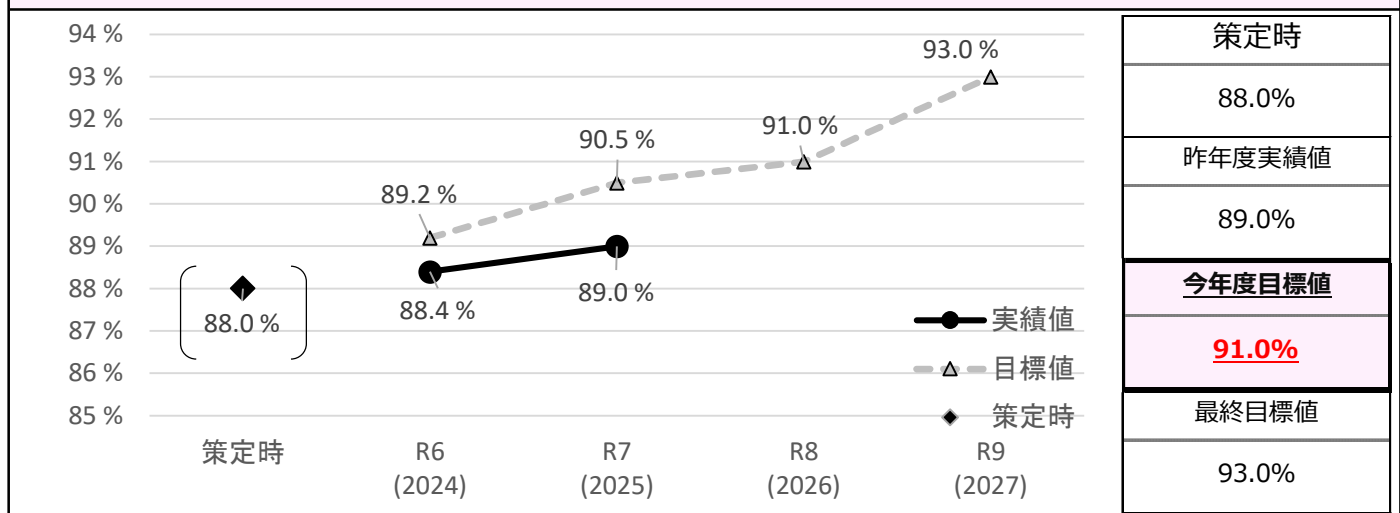


- ### 2 今年度の活動計画等
- ◆年間の活動計画
- A【見直し🌀】「鈴鹿市不登校支援初期対応マニュアル」を効果的に活用します。**長期欠席（不登校を含む）の未然防止・早期支援に向け、スクールライフサポーターや不登校対策教育支援員を派遣し、**発達支持的・課題予防的な教育活動を基盤として、新たな長期欠席・不登校を生まない取組を推進します。不登校支援担当者の資質向上を目指した担当者会の開催**や不登校支援アドバイザーの派遣を行い、支援のさらなる充実を図ります。
- B【見直し🌀】**不登校児童生徒に対し、教育委員会の教育支援センターや校内教育支援センター、**連携するフリースクール等**、多様な学びの場を確保します。
- C【新規📁】校内教育支援センターを充実させるため、教育委員会の教育支援センター職員が各校を訪問し、指導・助言を行います。**
- D【新規📁】ほっとルーム指導員連絡会を実施し、各校の状況を共有し、指導員の資質向上につなげます。**
- E【継続➡】**教職員の対応力向上を図るため、研修会等を計画的に実施します。
- F【継続➡】**不登校支援プロジェクト会議において重点取組を示し、実践校の取組をもとに効果的な不登校支援につなげます。
- G【継続➡】**不登校児童生徒理解のため、「こども支援シート」を活用します。
- H【継続➡】**県から派遣されるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、ケース会議や支援会議を実施することで、アセスメントにもとづいた支援へつなげます。
- I【継続➡】**フリースクール等連絡協議会を実施し、学校とフリースクール等の連携を進めます。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画
未然防止・早期対応に重点をおいた不登校支援により、新規の長欠・不登校児童生徒数を抑えることが見込まれることから、2027(令和9)年度の目標値100未満に向け、今年度は目標値を108と設定しました。 ※文科省の「児童生徒の問題行動登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を指標としています。毎年、調査結果は10月頃に発表されますが、発表される数値は前年度のものです。	実行計画番号 実行計画書の事業名
	12203 不登校対策推進事業

施策の基本的方向	2 自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成
基本事業	2-2 いじめ防止対策
指標	「いじめをしない・させないよう、友だちとともに考え、行動しているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート（児童生徒）】

1 指標の目標等



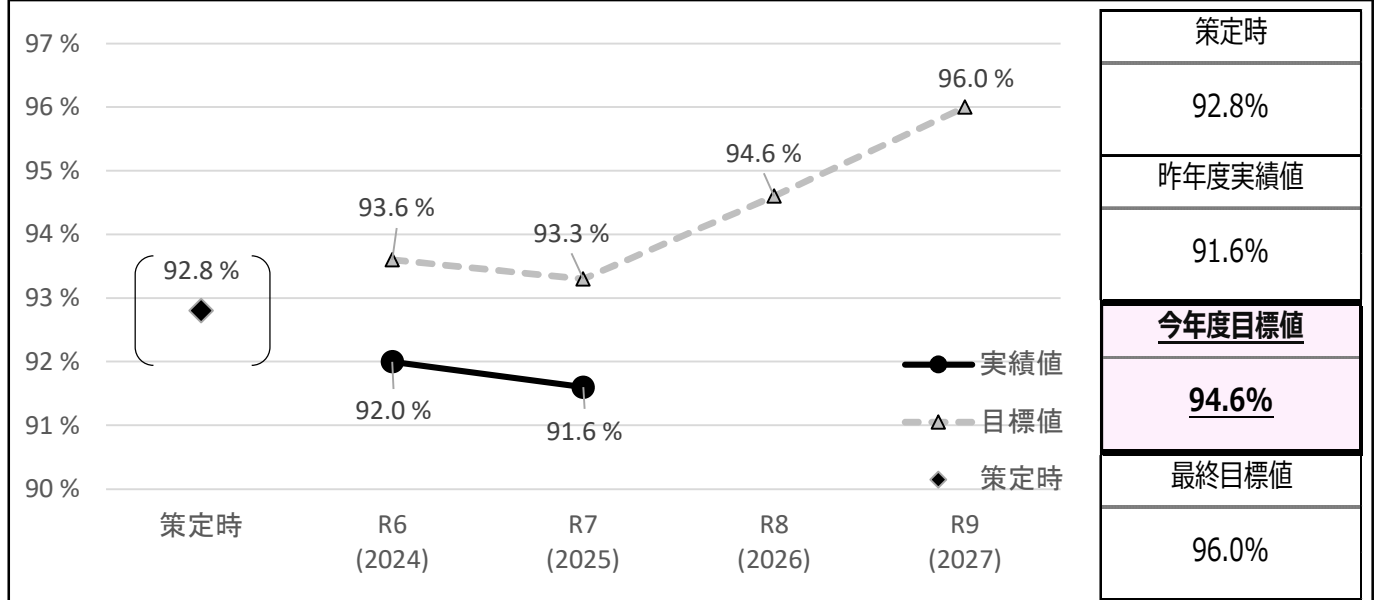
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【継続➡】** いじめを許さず、いじめを見抜く人権感覚を持った児童生徒の育成に取り組むとともに、ピンクシャツ運動など、こどもが主体となり、いじめを未然に防止する意識の醸成に取り組みます。
- B【継続➡】** 教職員のいじめ問題への防止等に関する理解を深め、いじめの問題に対して、その実態に応じた適切な対処ができるなどの資質や能力の向上のため、研修会の充実を図ります。
- C【継続➡】** いじめ防止対策推進法や県、市及び学校のいじめ防止基本方針に基づき、未然防止や早期発見、いじめ事案発生時の組織的対応などの積極的な支援を行います。
- D【継続➡】** SNS等を介したインターネット上のいじめに関する対策の推進を図るため、教科等を横断した系統的な情報モラル教育を進めるとともに、警察など関係機関と連携して未然防止に取り組めます。
- E【継続➡】** アンケート調査（学期に1回以上）や個人面談、教育相談の充実を図り、児童生徒が自らSOSを発信できる環境を構築します。
- F【継続➡】** 三重県のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等による相談体制の充実や「いじめ電話相談」「子どもSNS相談みえ」等の相談機関の紹介を行います。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画	
2025(令和7)年度の実績値は89.0%で、目標値との差は1.5ポイントでした。90%以上が肯定的な意見となることを目指して、児童生徒がいじめ防止に対して主体的に考え行動できるよう指導等を充実させていきます。 一方で、2026(令和8)年度の目標値については、実績値との乖離を踏まえ、着実な目標達成を図るため、91.0%へと下方修正しました。	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12204	いじめ防止対策推進事業

施策の基本的方向	2 自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成
基本事業	2-3 生徒指導
指標	「学校やクラスのルールやきまりを理解し守ることができているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート（児童生徒）】

1 指標の目標等



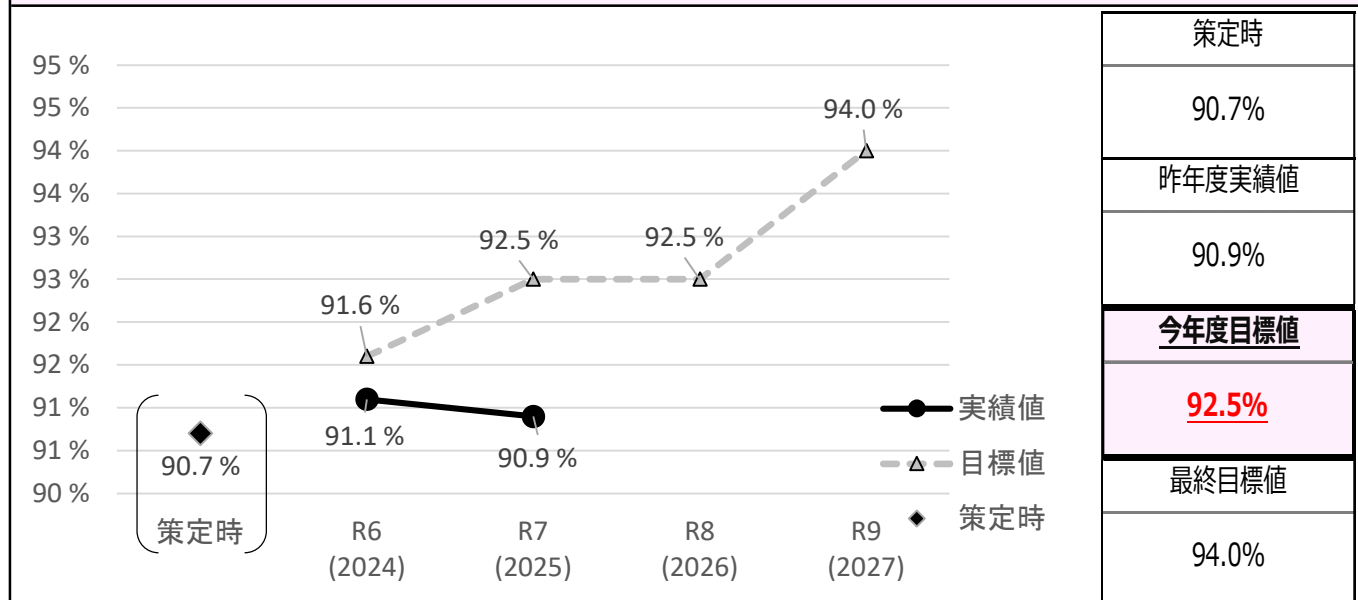
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【継続➡】** 生徒指導の実践上の視点（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）をあらゆる教育活動に取り入れ、教員の豊かな児童生徒理解と児童生徒との信頼関係に基づく組織的な生徒指導体制を構築します。
- B【見直し🌀】** 生徒指導担当者会（年間6回）等で、[こどもの規範意識や教員の対応力を高められる](#)研修を実施し、教員の研鑽を支援します。
- C【継続➡】** 校則の見直しやいじめ防止の取組等、生徒会及び児童会が中心となった児童生徒の主体的な取組を推進します。
- D【継続➡】** 中学校では生徒会研修会を実施し、各校の取組を交流することで、自校の取組に活かします。
- E【継続➡】** 生徒指導アドバイザーが組織的な生徒指導体制について各校に指導や助言を行います。
- F【継続➡】** 鈴鹿警察署や鈴鹿児童相談所、鈴鹿市こども家庭支援課などの関係機関等と連携した生徒指導の取組を推進するとともに、好事例等を研修会や教育委員会のサイト等で紹介します。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画
2025(令和7)年度の実績値は91.6%でした。	実行計画番号 実行計画書の事業名
2027(令和9)年度目標値の96.0%に向け、より一層規範意識の醸成に向けた指導を充実させていきます。そのため、目標を3ポイント増の94.6%を維持しました。	12205 健全育成事業
	12401 学校支援チーム事業
	12402 青少年対策諸事業
	12403 補導活動事業

施策の基本的方向	2 自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成
基本事業	2-4 人権教育
指標	「差別をなくすために何かできることをしたいか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート（児童生徒）】

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

◆年間の活動計画

- A【継続➡】** 学校・園では、こどもの実態をもとにした人権教育推進計画や人権教育カリキュラムに基づき、教育活動全体を通じた人権教育を計画的・組織的に進めます。
- B【継続➡】** 中学校区こども人権フォーラムを開催し、中学校区で児童生徒が主体的に活動する「こども人権ネットワークづくり」を進めます。
- C【継続➡】** 学校・園の人権教育推進に向けて、人権教育センター職員による研修会（授業研究やレポート研修含む）等の支援に取り組みます。
- D【継続➡】** 障がいや国籍など、様々な背景をもつ子どもたちが、遊びや活動、学習を通じて交流できる居場所づくりに取り組みます。
- E【見直し🌀】** 教職員の人権意識の高揚を図るため、部落問題をはじめとした様々な人権課題についてアウトプット型の校内人権教育研修会や、[全教職員対象の人権教育研修講座](#)を行います。

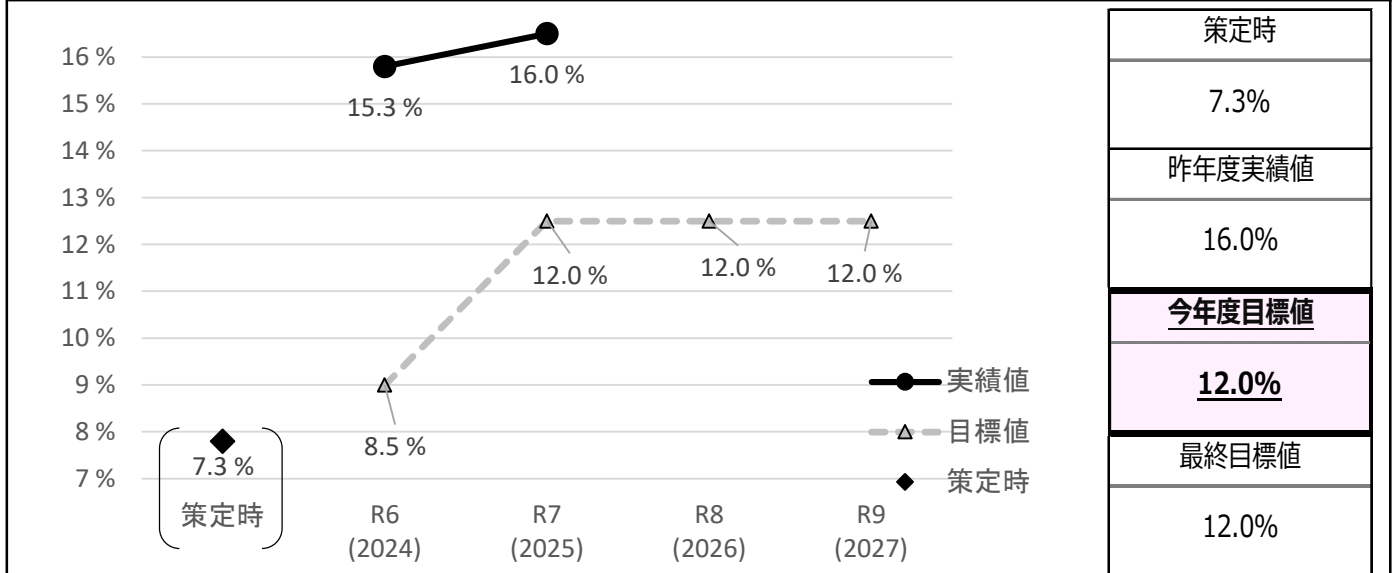
◆今年度目標値の設定根拠

3 関連する総合計画2031の実行計画	
実行計画番号	実行計画書の事業名
12201	学校人権教育事業
12206	人権教育センター子どもの居場所づくり事業
12251	人権教育センター管理運営事業

2025(令和7)年度の実績値は90.9%であったため、2027(令和9)年度の目標値94.0%に向け、児童生徒が主体的に活動する人権教育活動を推進することにより、より一層、差別をなくそうとする意識の醸成を図っていきます。そのため、2026(令和8)年度の目標値は、92.5%を目標として再設定しました。

施策の 基本的方向	2 自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成
基本事業	2-5 特別支援教育
指標	全児童生徒において、個別の指導計画を作成している児童生徒の割合【三重県独自調査】

1 指標の目標等



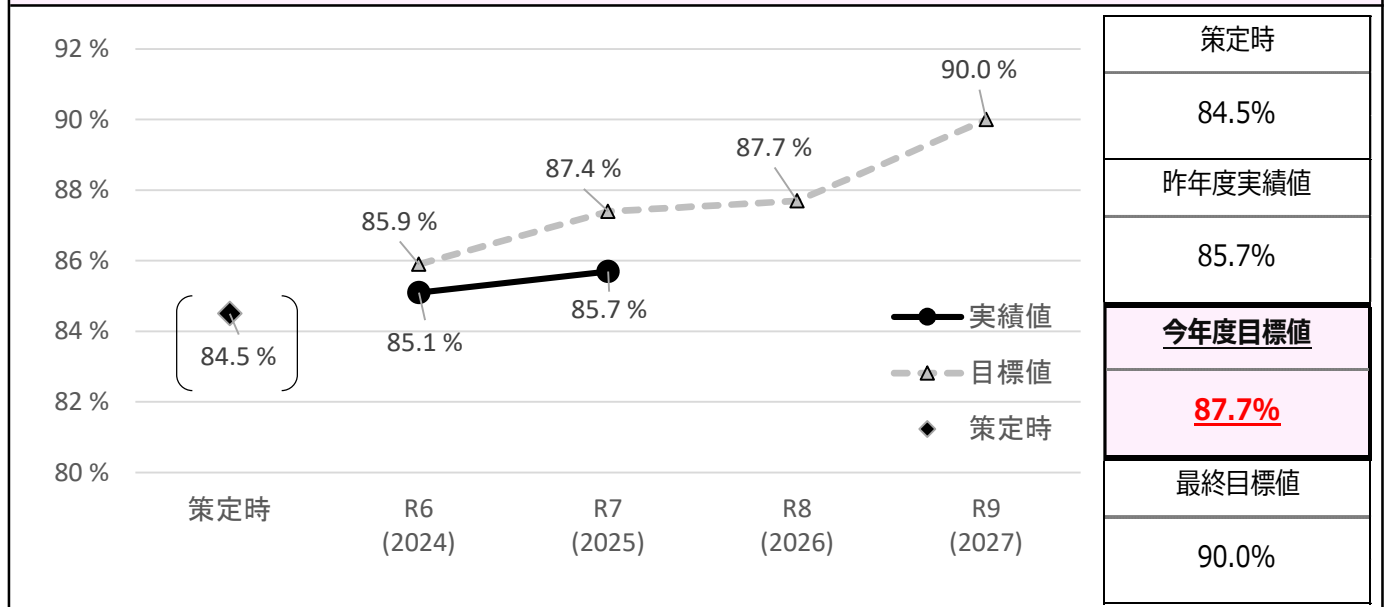
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【継続➡】** 引継体制の充実及び途切れのない支援を行うために、公立幼稚園・保育所、私立就学前施設が参加して実施する特別支援教育コーディネーター会議において、よりよい支援方法を検討します。
- B【継続➡】** 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を含む「すずっこファイル」を作成し、進学や転学・進級時の引継ぎや個に応じた効果的な支援に活用します。
- C【継続➡】** 教員の専門性の向上及び通常学級での支援の充実をめざし、研修会や授業改善資料の作成等を計画的に実施します。また、夏季休業中には「すずっこスクエア」の参観研修を行います。特別支援教育コーディネーター会議では、本市の現状を踏まえた研修内容を実施します。
- D【継続➡】** 通級指導教室において、個に応じた適切な支援を講じることができるよう、担当者会では、効果的な指導方法の交流、課題の共有・協議等を行います。
- E【見直し🌀】** 2025(令和7)年度プロジェクト会議で作成した資料「[特別支援教育の視点からの『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実をめざす支援](#)」を小中学校で活用し、通常学級における支援の充実をめざします。途切れのない支援を行う校内体制や授業づくり、支援方法等について、継続して協議します。
- F【継続➡】** 特別支援学校等と連携し、実態に応じた教育課程の編成のための指導助言を行います。
- G【継続➡】** 医療的ケア運営協議会では、災害時の対応や保護者の負担軽減等についての協議や来年度入学児童の支援体制の検討等を行います。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画
実績値は、2025(令和7)年度が16.0%で、2027(令和9)年度の目標値を超える結果となりました。本指標は、最終目標値を上げることは適切でないため、国の傾向を踏まえた12.0%を基準として、引き続き目標値としました。	実行計画番号 実行計画書の事業名
	12207 特別支援教育事業

施策の基本的方向	2 自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成
基本事業	2-6 日本語教育及び多文化共生教育
指標	「多くの国の人と友だちになったり、自分の国以外の国のことについてもっと知りたいと思うか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート（児童生徒）】

1 指標の目標等



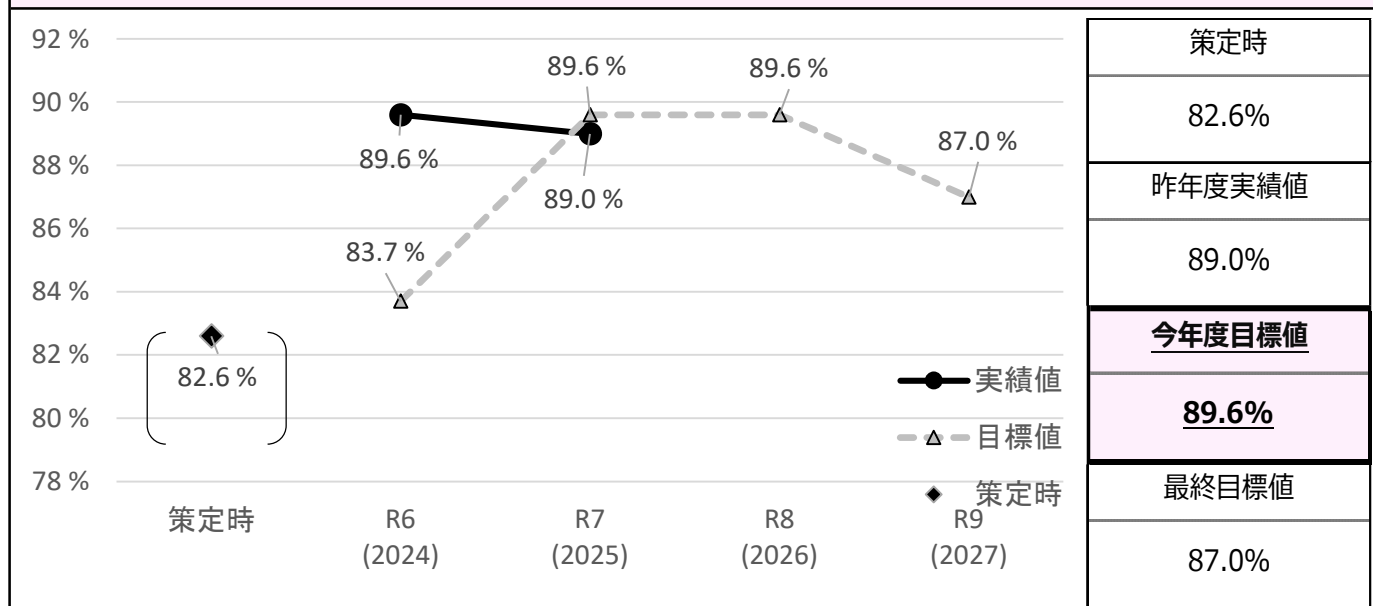
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【継続→】**「JSLバンドスケール」を用いて、外国人児童生徒等一人ひとりの日本語の発達段階を把握し、個に応じた日本語支援を行います。
- B【継続→】**外国人児童生徒等が理解しやすい授業を学校全体で行うため、「にほんごUP5☆」を活用した授業づくりを行います。
- C【継続→】**教員の指導力向上や校内体制のさらなる充実を図るため、研修会等を計画的に実施します。
- D【継続→】**多文化共生教育担当者が中心となり、すべての児童生徒が、多様な文化、価値観について興味関心を高め、互いを理解し合える取組を学校全体で進めます。
- E【継続→】**多文化共生教育実践EXPOを開催し、各校の多文化共生教育の実践交流を行います。
- F【継続→】**日本語教育支援プロジェクト会議を開催し、在籍学級における日本語支援の充実を推進します。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画
2025(令和7)年度の実績値は85.7%で、目標値との差は1.7ポイントでした。多文化共生教育実践EXPO等を通じて各校の取組を交流し、自校の実態に応じた実践へと展開が見込まれることから、2027(令和9)年度の目標値の90.0%に向け、2026(令和8)年度の目標値は87.7%と設定しました。	実行計画番号 実行計画書の事業名 12202 外国人児童生徒サポート事業

施策の基本的方向	2 自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成
基本事業	2-7 道徳教育
指標	「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】

1 指標の目標等



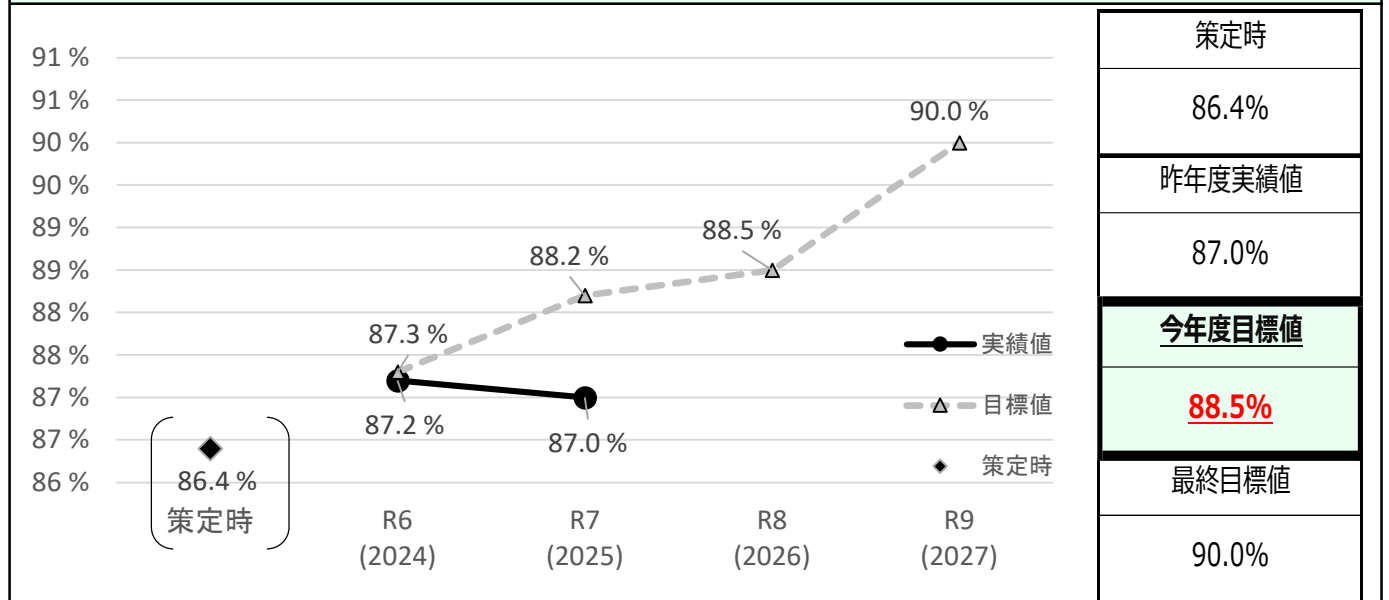
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【継続➡】** 各校の教育目標に基づき、児童生徒の実態に応じた重点内容項目を設定し、年間を見通した計画を作成します。
- B【見直し🌀】** ICT活用を取り入れるなど「考え、議論する道徳」の質的向上と授業実践の定着を図ります。そのため、担当者会において、他市町の好事例を発信したり、学校間での事例検討や交流会の場を設定したりします。
- C【継続➡】** こどもたちが自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えられる授業を行うために、引き続き教員の研修の充実を図ります。

◆今年度目標値の設定根拠 2025(令和7)年度の実績値は89.0%と微減しましたが、2027(令和9)年度の最終目標値は上回る結果となりました。好事例の共有やICT活用、研修の充実により授業の質的向上と児童生徒の自己を見つめる力の育成を図る取組により、2024(令和6)年度実績値89.6%以上の成果が期待できるため、目標値を89.6%に設定しました。	3 関連する総合計画2031の実行計画	
	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12104	学力向上支援事業

施策の基本的方向	3 心身の健康を自ら育み、豊かな感性を身に付けた子どもの育成
基本事業	3-1 心身の健康と食に関する教育
指標	運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは「好き」「やや好き」と回答した児童生徒の割合【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

◆年間の活動計画

- A【継続➡】** 幼児期に望ましい生活習慣や運動習慣の確立のため、園児の興味や関心、生活経験等に基づき、環境の構成や活動内容、実施形態等を工夫しながら、幼児の体力向上実践プログラム「きらきらタイム」に取り組みます。
- B【継続➡】** 各学校における、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を分析し、授業改善や体力向上に向けて、日常的な運動習慣づくりに取り組みます。
- C【継続➡】** 外部指導者を活用した健康教育出前講座や小中学校における保健体育での教科指導、保健だよりの発行などにより、疾病予防や生活習慣病対策の啓発に引き続き取り組みます。その際、ICT活用など効果的な方法を取り入れます。
- D【継続➡】** 食に関する知識や指導方法の向上を目的とした「食育担当者会」の充実を図ります。そのため、栄養教諭等と連携した食に関する授業や「食育月間」「食育の日」の取組を実施するとともに、担当者会で取組を共有し、各校の実践に生かします。また、鈴鹿医療科学大学との学官連携により、レシピ集の作成・発行を継続します。
- D-2【継続➡】** 全体指導計画に基づき、学校給食を「生きた教材」として活用し、残食量削減に加え、食品ロス削減や地場産食材の活用を含めた食育を推進します。
- E【見直し🌀】** 児童の確かな水泳技能習得のために、[学校外プール施設の利用校を13校に拡大](#)し、水泳授業を実施します。

◆今年度目標値の設定根拠

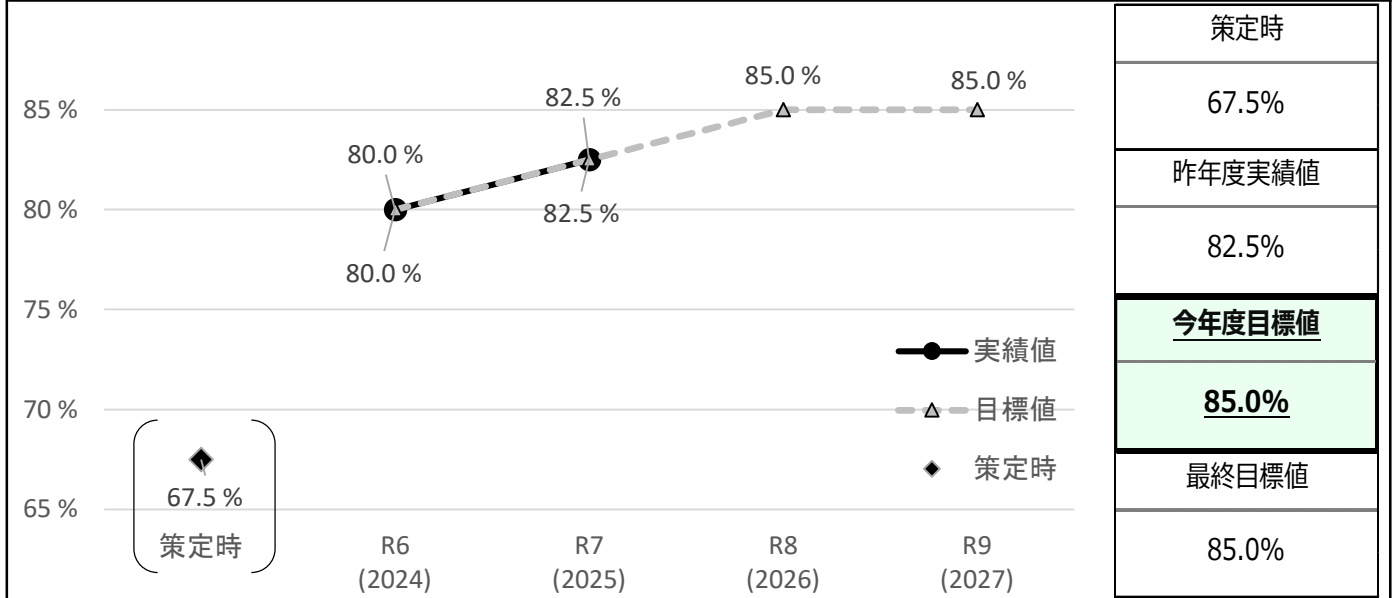
2025(令和7)年度の実績値は87.0%でしたので、2027(令和9)年度の目標値90.0%に向け、授業改善及び体力向上の取組の充実を図ることにより、年間1.5ポイント増を目標として設定しました。

3 関連する総合計画2031の実行計画

実行計画番号	実行計画書の事業名
12304	教育活動事業
12305	学校保健事業

施策の基本的方向	3 心身の健康を自ら育み、豊かな感性を身に付けた子どもの育成
基本事業	3-2 文化・芸術活動
指標	「未来応援人」を活用した学校の割合

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

◆年間の活動計画

A【継続➡】 芸術活動の発表の機会を充実させ、持続可能な実施としていくため、関係機関と連携しながら意見聴取、協議及び効果検証を行い、美術作品展、科学作品展、書写展及び小中学校音楽会を全市的に実施します。

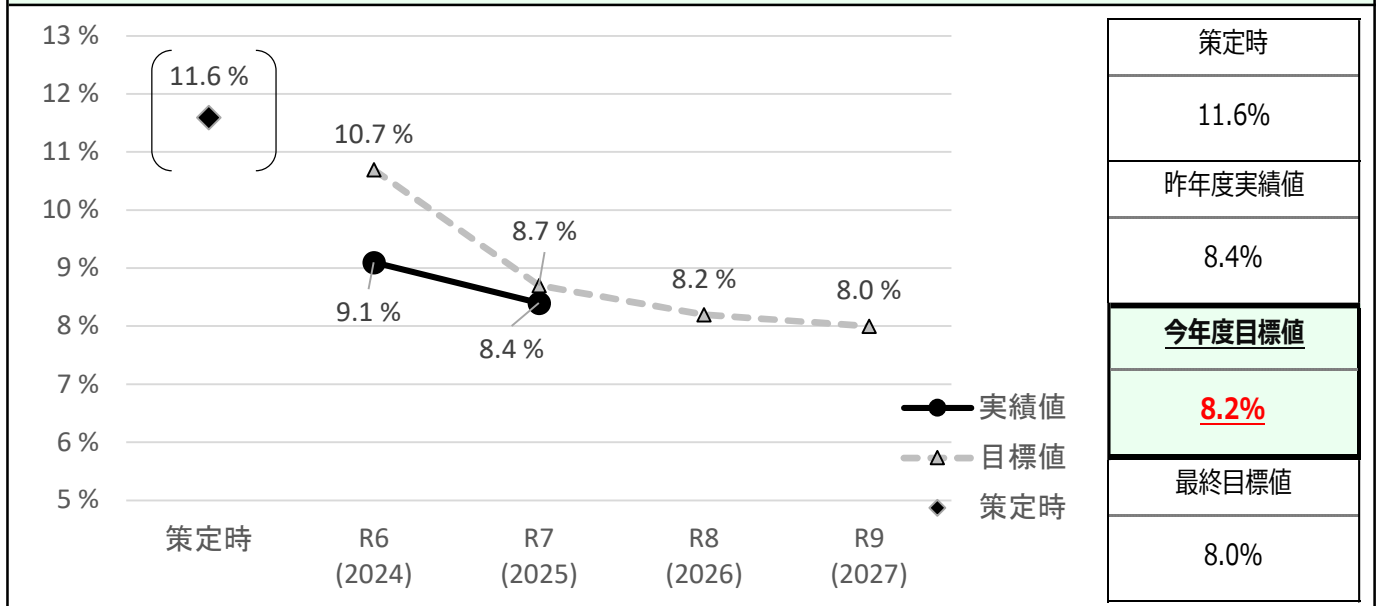
B【継続➡】 文化・芸術に係る体験活動の計画的・継続的な実施のため、学校（園）における「未来応援人」事業の活用を進めます。各校（園）の実状やニーズの把握とともに、講師との協議をとおして、講座内容の更新や新たな講師の登録等を行います。

C【継続➡】 系統的に豊かな感性や情操を育むため、直接的な体験を基盤としながら、適宜ICTを活用し、中学校区での文化・芸術活動等の交流を推進します。

◆今年度目標値の設定根拠 2026(令和8)年度は、講師の登録更新の年度に当たるため、講座内容の更なる充実を図ることにより、2.5ポイント以上の増加（小学校再編により全38校になるため約1校分の計算）として、目標を設定しました。	3 関連する総合計画2031の実行計画	
	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12302	未来応援人事業
	12304	教育活動事業

施策の 基本的方向	3 心身の健康を自ら育み、豊かな感性を身に付けた子どもの育成
基本事業	3-3 安全・安心で安定的な学校給食の提供
指標	中学校給食における副菜の残菜率

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

◆年間の活動計画

A【継続➡】 安全・安心で安定的な学校給食を提供するため、衛生管理面では調理員等関係職員の検便実施、各給食調理施設の衛生検査、害虫等予防、職員研修等を、食物アレルギー対応面では保護者とのアレルギー確認の徹底や保護者・教職員・児童生徒との該当児童生徒のアレルギー情報の共有による給食提供時の安全確認等の連携を、施設保全の面では設備・備品の適切な維持管理を行います。

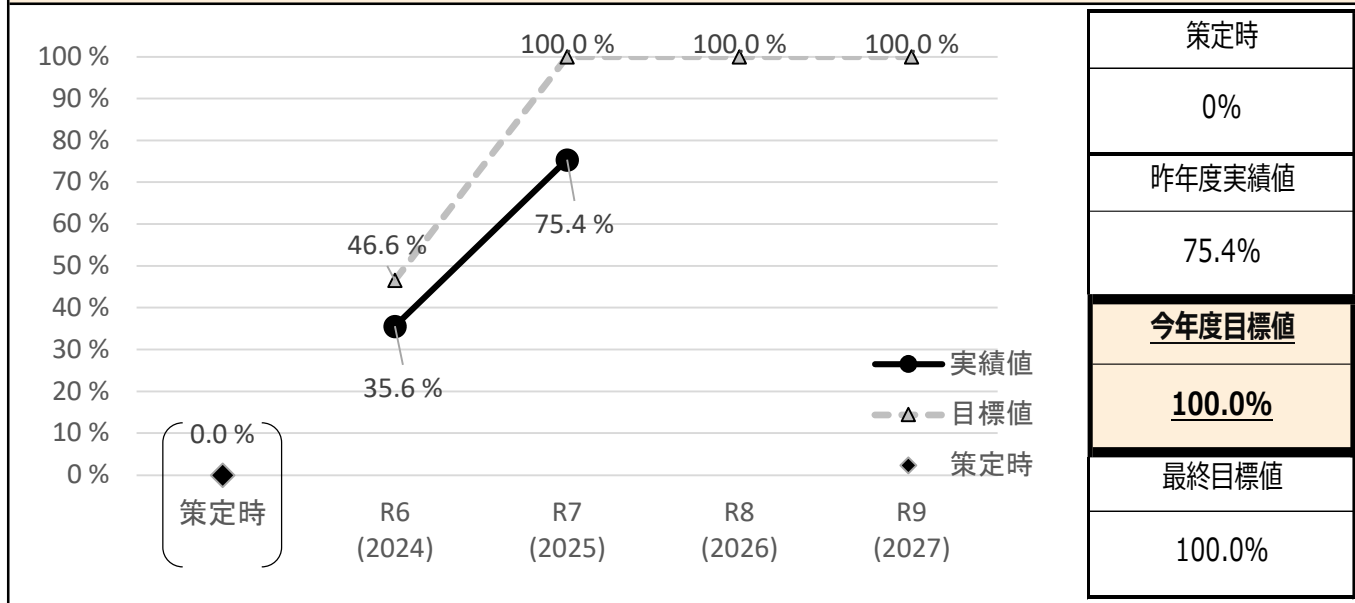
B【継続➡】 昨年度、生徒全員を対象に実施した中学校給食に関するアンケートを基に、残菜率改善の目標値達成に向けて、献立作成や喫食時間の確保等、教育委員会及び各学校において取組を行います。また、各中学校の残食状況の調査・分析に加え、他自治体での好事例も参考として目標値達成に向けた取組を行います。

C【見直し🌀】 学校給食費の徴収事務において、収納率の向上と業務の効率化を図るため業務委託による電話催告業務を継続するとともに、[自主徴収が困難な案件に対して民事訴訟法に基づく法的措置の実施を行います。](#)

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画										
2026(令和8)年度から2027(令和9)年度までに、0.4%の残菜率の改善を目標としていますので、年間で0.2ポイントの改善を図ることを目標として設定しました。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実行計画番号</th> <th>実行計画書の事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12301</td> <td>学校給食費管理事業</td> </tr> <tr> <td>12351</td> <td>給食調理室運営事業</td> </tr> <tr> <td>12352</td> <td>学校給食センター管理運営事業</td> </tr> <tr> <td>12353</td> <td>第二学校給食センター管理運営事業</td> </tr> </tbody> </table>	実行計画番号	実行計画書の事業名	12301	学校給食費管理事業	12351	給食調理室運営事業	12352	学校給食センター管理運営事業	12353	第二学校給食センター管理運営事業
実行計画番号	実行計画書の事業名										
12301	学校給食費管理事業										
12351	給食調理室運営事業										
12352	学校給食センター管理運営事業										
12353	第二学校給食センター管理運営事業										

施策の 基本的方向	4 家庭・地域とともに子どもの成長を支える教育環境づくりの推進
基本事業	4 - 1 休日の部活動地域移行
指標	休日の部活動地域移行実施率 (休日に活動している部活動のうち、移行ができた部活動の割合) 【独自調査】

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

◆年間の活動計画

A【継続➡】 休日の地域での活動への移行に向けた体制整備を進めるため、各スポーツ・文化芸術団体との連携を継続し、指導者の確保及び持続可能な運営体制について協議を重ねます。

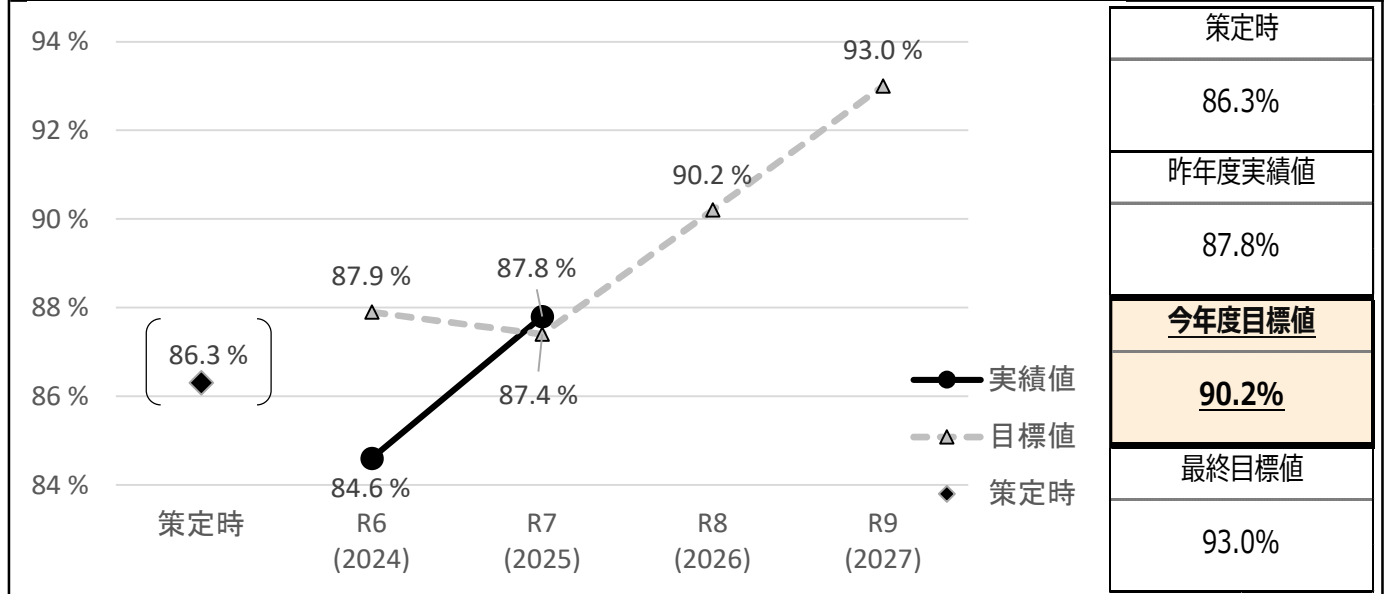
B【見直し🔄】 該当学年の生徒、保護者が正しい情報を得られるよう、[休日の学校部活動終了後の大会参加等について](#)、丁寧に周知します。

C【新規📄】 [学校施設を利用した取組により、中学生が休日にスポーツ・文化芸術活動に参加できる場を確保します。](#)

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画	
2026(令和8)年10月以降、中学校における休日の学校部活動は実施しないことを決定しています。これまで休日に活動していた学校部活動は、すべて地域での活動に移行するため100%と設定しました。	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12303	部活動振興事業
	12406	部活動地域移行推進事業

施策の基本的方向	4 家庭・地域とともに子どもの成長を支える教育環境づくりの推進
基本事業	4-2 地域とともにある学校づくり
指標	「学校と地域が連携した取組が行われているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した保護者の割合【学校アンケート（保護者）】

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

◆年間の活動計画

A【継続➡】 学校運営協議会等の中で教育課題を共有・協議し、家庭、地域、学校がそれぞれの立場から、主体的に地域のこどもの成長を支える「協働型」のコミュニティ・スクールの実践を推進します。

B【継続➡】 学校運営協議会委員や地域コーディネーター等の共通認識を深め、より効果的な協働を図るために、有識者による講演会や先進地域の取組に関する研修会を実施します。

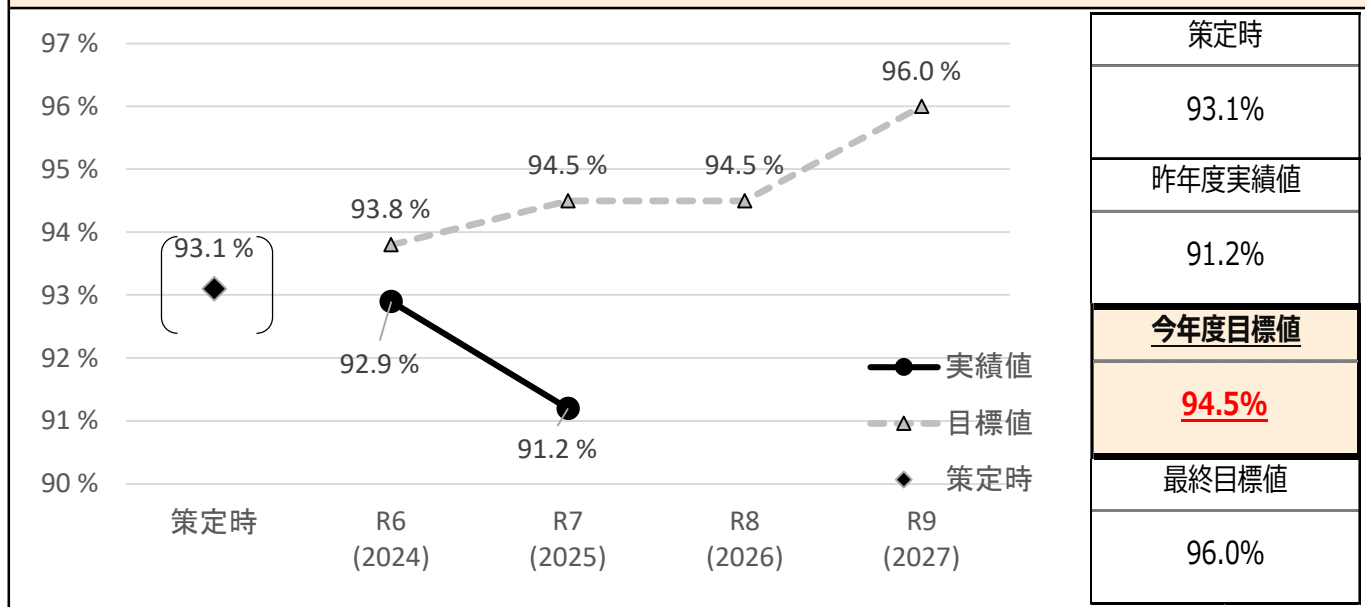
C【継続➡】 学校支援ボランティア等、地域の方々の協力をさらに募りながら、地域と学校をつなぎ、地域から信頼される学校づくりを推進します。

D【継続➡】 各校の学校運営協議会にコミュニティ・スクール推進コーディネーターを派遣し、「協働型」のコミュニティ・スクールの実践について助言するとともに、先進地の講師を招いた研修会を実施します。

◆今年度目標値の設定根拠 2025(令和7)年度の実績値は87.8%で、目標値に達しています。2027(令和9)年度の目標値の93.0%に向け、昨年度からの計画どおり、2026(令和8)年度の目標値は90.2%の設定を維持しました。	3 関連する総合計画2031の実行計画	
	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12405	コミュニティ・スクール推進事業

施策の基本的方向	4 家庭・地域とともに子どもの成長を支える教育環境づくりの推進
基本事業	4-3 安全・安心の学校づくり
指標	「危険なことから自分たちを守るため、安全な行動を取っているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【学校アンケート（児童生徒）】

1 指標の目標等



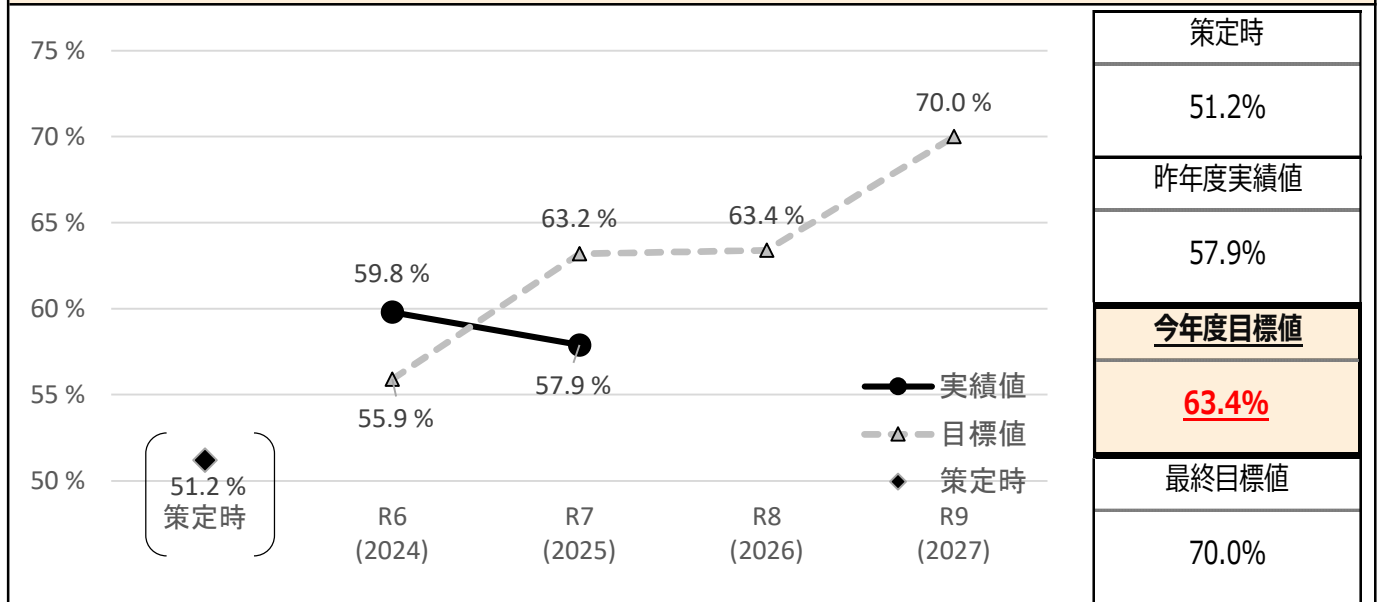
2 今年度の活動計画等

- ◆年間の活動計画
- A【見直し🌀】各校の実状に合わせて、児童生徒が主体的に学べるように、**「交通安全教室」や「防犯教室」「不審者侵入対応訓練」等の学習内容の充実を図り、警察や関係団体と連携して取り組みます。
- B【継続➡】**児童生徒の適切な判断力、主体的な行動力を育成するため、防災・減災に関する意識や知識の向上を図り、実効的な防災訓練、女川中学校との交流等の取組を通じて、防災・減災教育を行います。
- C【継続➡】**青色回転灯等装備車によるパトロールの実施、安全安心ボランティア等との連携、保護者や地域住民とともに行う防災教育、「鈴鹿市公式LINE」システムの活用などにより、こどもたちを守るネットワークや組織体制の整備を行います。
- D【継続➡】**道路管理者や警察などの関係機関と連携し、鈴鹿市通学路交通安全プログラムに基づく通学路の合同点検や危険箇所の改善に取り組みます。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画
2025(令和7)年度の実績値は91.2%でした。2027(令和9)年度の目標値96.0%に向け、今年度目標値を94.5%に下方修正しました。防犯教室や情報モラル教育など取組の充実を図ることにより、まずは昨年度と同じ目標値94.5%を目指します。	実行計画番号 実行計画書の事業名
	12404 安全安心ネットワーク推進事業

施策の基本的方向	4 家庭・地域とともに子どもの成長を支える教育環境づくりの推進
基本事業	4-4 郷土教育及び環境教育
指標	「今住んでいる地域の行事に参加しているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合【児童生徒質問紙】

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

◆年間の活動計画

A【継続➡】地域の良さや歴史、文化、豊かな自然を学ぶため、地域の人材や社会教育施設等を活用した体験学習に関する取組内容を発信します。

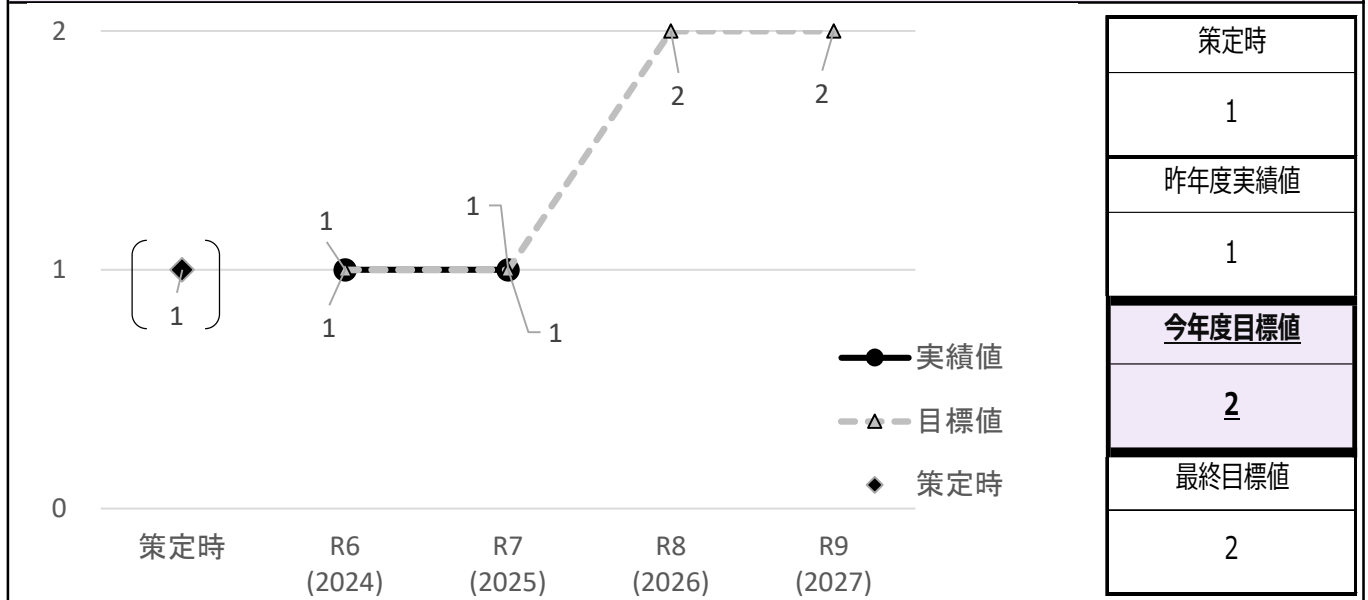
B【見直し🌀】本市の成り立ちや地理的環境、産業などの学習とともに、地域が抱える課題を解決し、よりよい社会に向けて自分たちにできることを考える課題解決型の授業に取り組めるよう、デジタル化した社会科副読本「のびゆく鈴鹿市」の活用を推奨します。また、[特設サイトに郷土教育のページを立ち上げ](#)、指導案及び学習資料などを共有し、[小学3年生以上の系統的な郷土教育](#)に取り組みます。

C【継続➡】環境課題への理解を深め、主体的に行動する態度を育成するため、チャレンジ・エコスクールや学校環境デー等に、各校園で取り組みます。また、地域との連携や、体験的活動による環境教育を促進するため、出前授業等の実施を推進します。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画
郷土教育に係る特設ページを新たに運用することにより、各校において地域に根ざした取組の促進が見込まれることから、63.4%を目標として設定しました。	実行計画番号 実行計画書の事業名
	12104 学力向上支援事業
	12106 小学校教育推進事業

施策の 基本的方向	5 学校環境の整備・充実
基本事業	5 - 1 学校規模の適正化
指標	【教育振興基本計画】 屋内運動場に空調設備を設置した学校の割合

1 指標の目標等



2 今年度の活動計画等

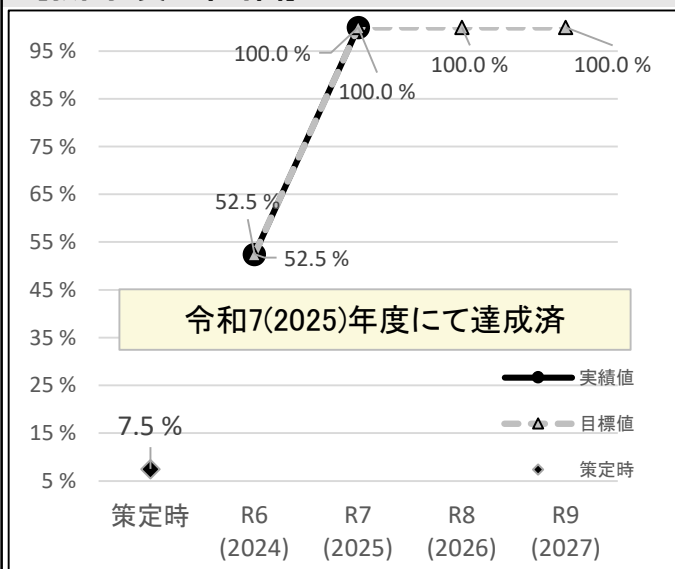
- ◆年間の活動計画
- A【継続➡】** 今後20年間の児童生徒数・学級数の推移を的確に把握するために、20年推計を作成します。
- B【継続➡】** 20年推計を基に、今後、過小規模校となり複式学級の発生が予測される地域の保護者や地域への現状説明の上、意見聴取などを行い、今後の方向性を検討し、市長部局と連携して再編計画を策定します。
- C【継続➡】** 2032（令和14）年4月の天栄中学校校区における義務教育学校の設置に向けて、児童生徒数や施設規模等の検討をはじめ、9年間の教育課程の考え方などについて再編計画素案を作成に向け準備を進めます。

◆今年度目標値の設定根拠	3 関連する総合計画2031の実行計画	
今年度は、今後の複式学級の発生が予測される地域で新たな再編計画を策定していく段階であることから、目標値を2としています。	実行計画番号	実行計画書の事業名
	12501	教育推進事業

施策の基本的方向	5 学校環境の整備・充実
基本事業	5-2 施設等の環境整備
指標	【教育振興基本計画】 屋内運動場に空調設備を設置した学校の割合
	【教育委員会独自設定】 学校校舎のトイレを洋式化した割合

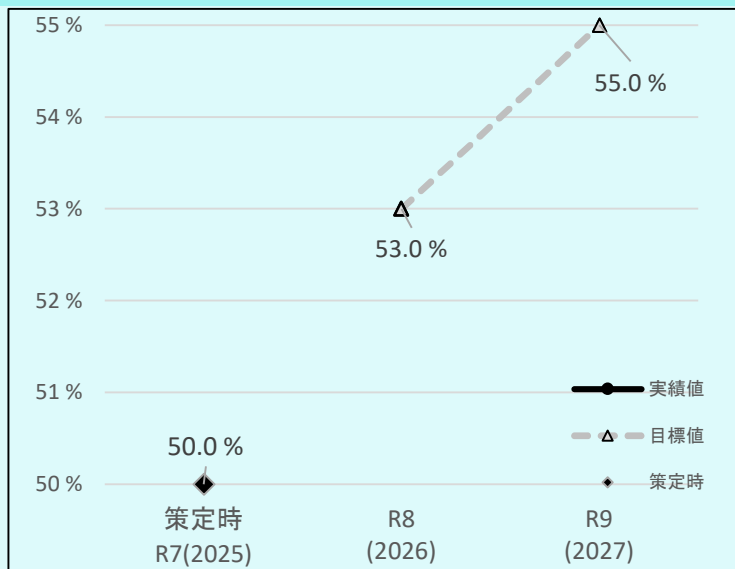
1 指標の目標等

【教育振興基本計画】



策定時	昨年度実績値	今年度目標値	最終目標値
7.5%	100.0%	100.0%	100.0%

【教育委員会独自設定】



策定時	昨年度実績値	今年度目標値	最終目標値
50.0%	50.0%	53.0%	55.0%

2 今年度の活動計画等

◆年間の活動計画

A【継続➡】 学校施設・設備の老朽化対策として、「鈴鹿市公共建築物個別施設計画」に基づき整備を進めます。

B【継続➡】 学校給食センターの老朽化対策として、大規模改修（設備改修・厨房機器更新）を行います。

C【見直し🔄】 [小中学校の屋内運動場へ設置した空調設備の維持管理をしていきます。](#)

D【継続➡】 小中学校のトイレ洋式化の推進として「鈴鹿市公共建築物個別施設計画」に基づき整備を進めます。

◆今年度目標値の設定根拠

2025(令和7)年度の実績値は50.0%でしたので、2027(令和9)年度目標を55.0%とし、計画的な改善目標を設定しました。

3 関連する総合計画2031の実行計画

実行計画番号	実行計画書の事業名
12502	河曲小学校施設整備事業
12503	小学校教育施設環境整備事業
12504	小学校学校施設長寿命化・大規模改造事業
12505	中学校教育施設環境整備事業
12506	大木中学校施設整備事業
12507	中学校学校施設長寿命化・大規模改造事業

実行計画番号	実行計画書の事業名
12508	学校給食センター施設改修事業
12509	郡山小学校施設整備事業
12551	小中学校警備事業
12552	小学校施設管理事業
12553	中学校施設管理事業
12551	小中学校警備事業